

第2章 一般市民アンケート結果

2.1 調査概要

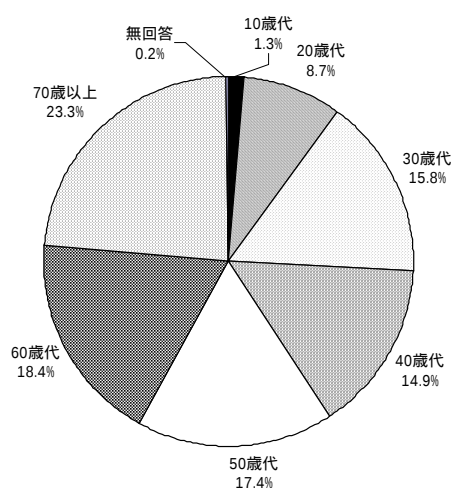
対象者	西東京市在住の18歳以上の市民 159,491人 (平成19年10月1日現在)
サンプル数	2,000人(無作為抽出)
調査期間	平成19年10月5日～平成19年10月17日
調査方法	調査票の郵送配布・郵送回収法
有効回答数(割合)	847(42.4%)

2.2 調査結果

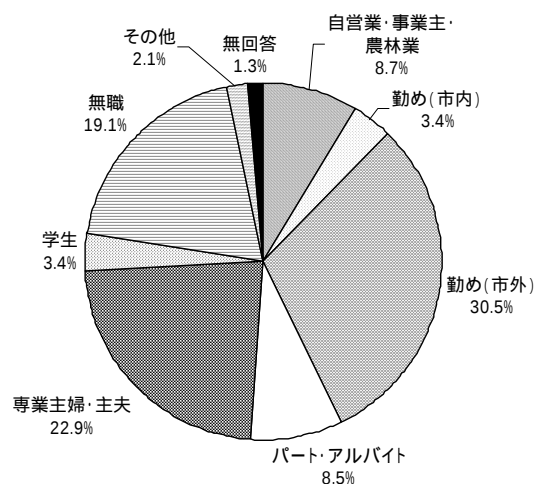
回答総数(n)は、明記されているもの以外はすべて847である。割合(各回答の百分率)はnを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入したものである。このため、個々の比率の合計が100.0%にならない場合がある。

2.2.1 回答者自身について

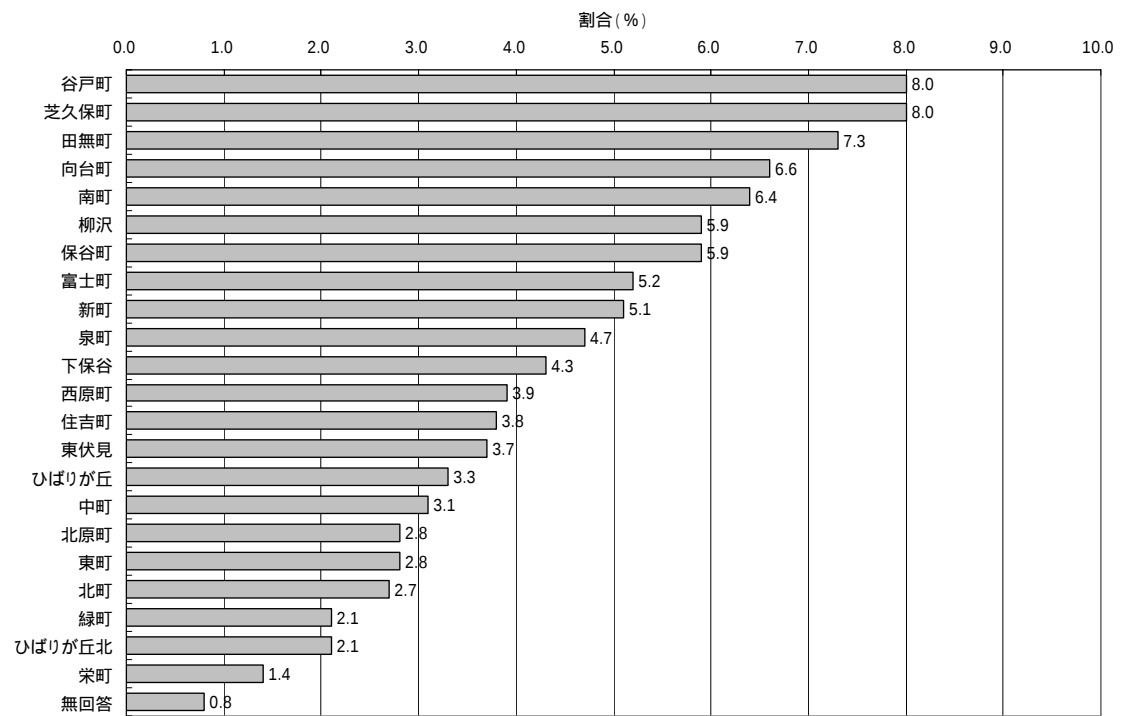
年代



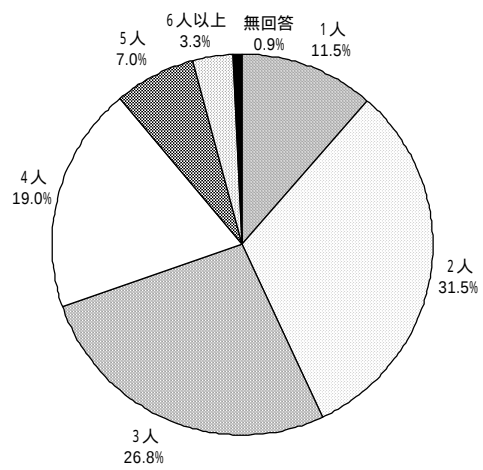
職業



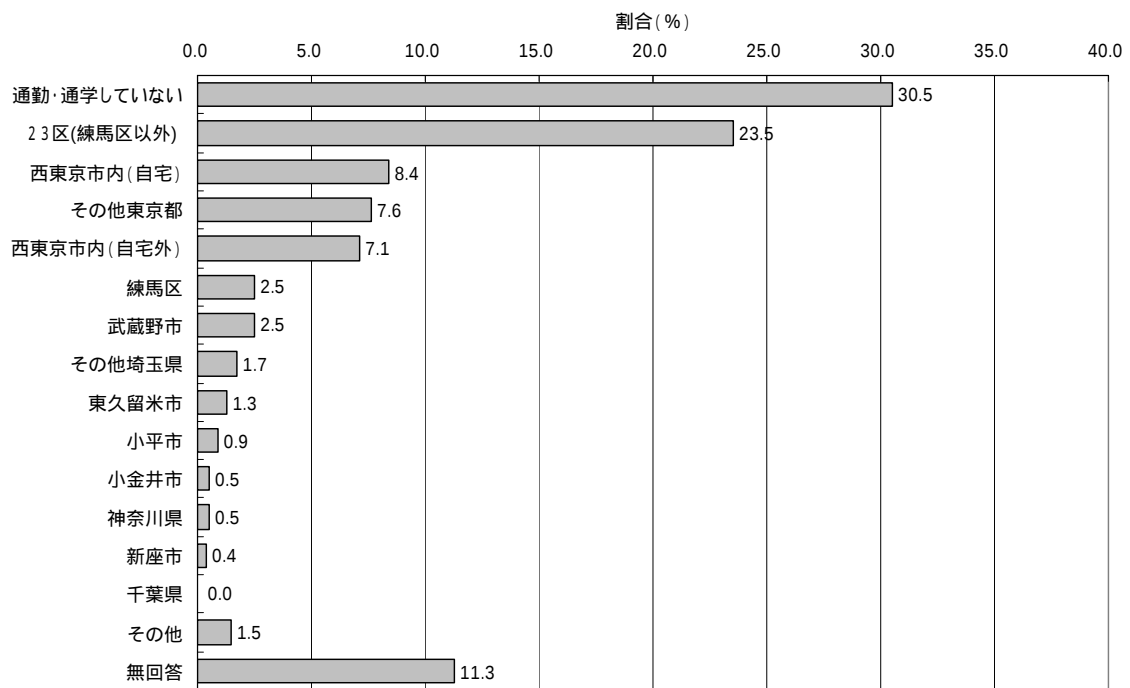
住まいの地域



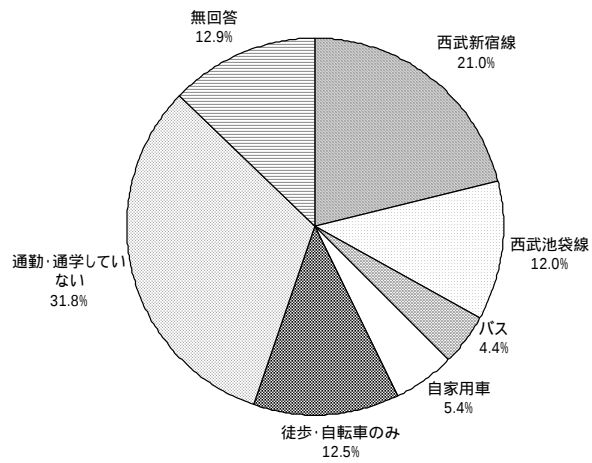
家族の人数



通勤・通学地

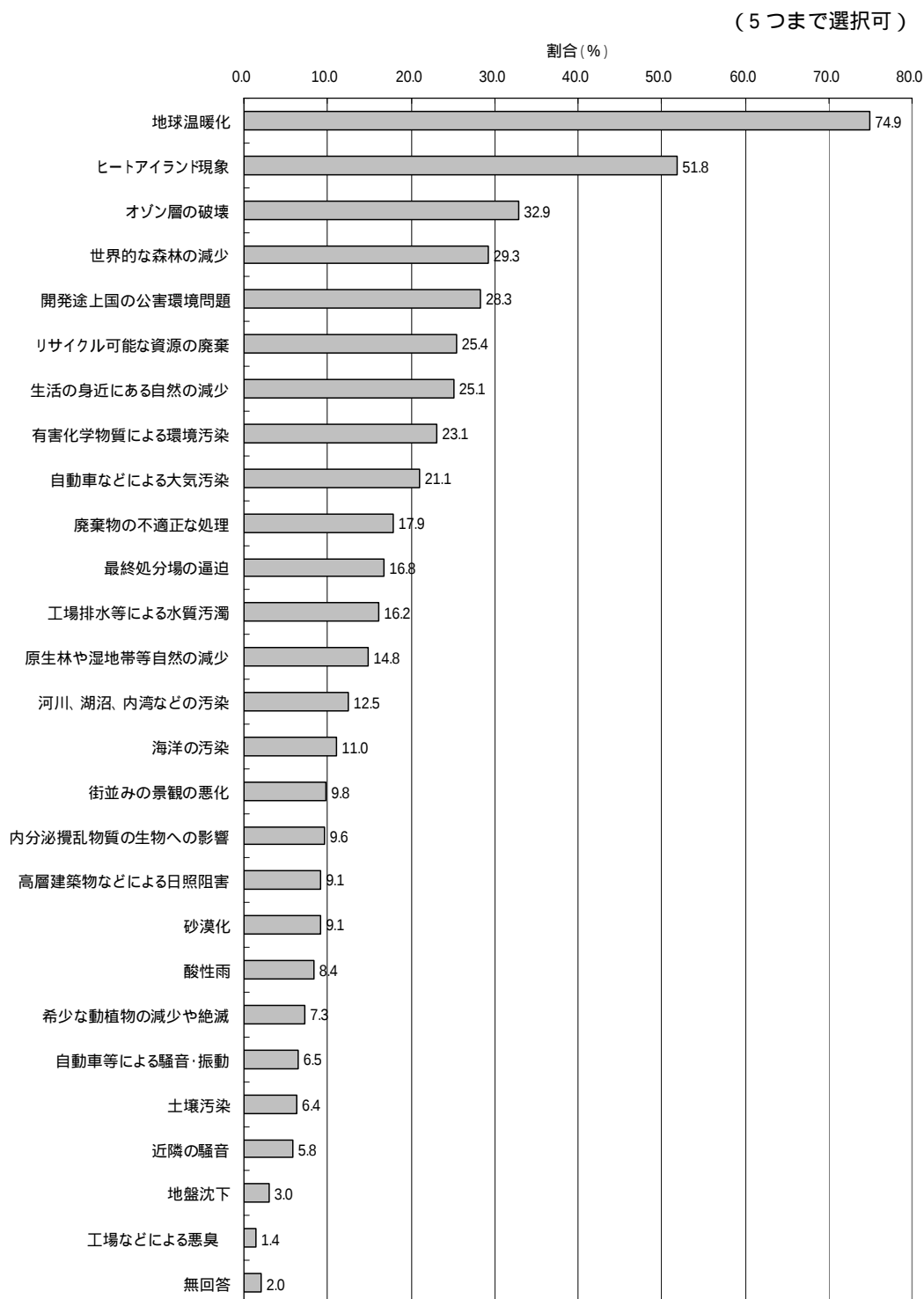


通勤・通学手段



2.2.2 課題となる環境課題（問1）

優先的に解決していくべき環境問題として、「地球温暖化」が最も多く（74.9%）、「ヒートアイランド現象」（51.8%）、「オゾン層の破壊」（32.9%）と続いている。前回のアンケート（平成14年実施）と比べると、「世界的な森林の減少」（20.9%→29.3%）、「開発途上国の大気汚染や水質汚濁などの公害環境問題」（12.7%→28.3%）が大きく伸びていた。



【 年代別の回答 】

表 年代別の回答（１位～１０位）

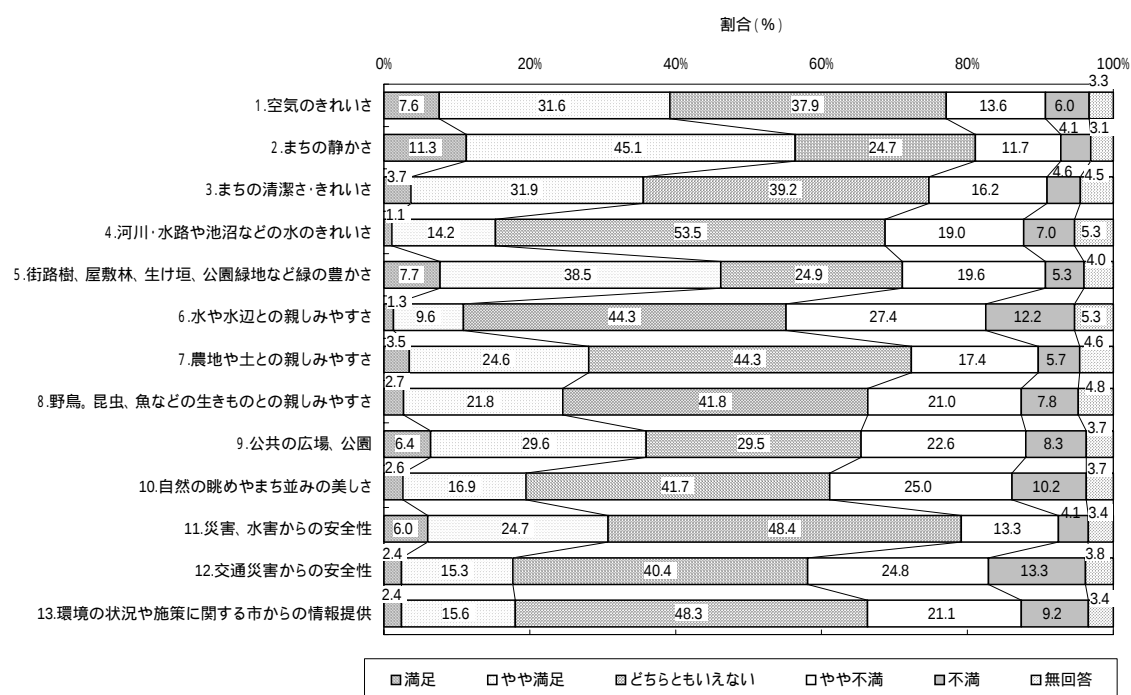
	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳 以上
1 位	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化
2 位	ヒートアイ ランド現象	ヒートアイ ランド現象	ヒートアイ ランド現象	ヒートアイ ランド現象	ヒートアイ ランド現象	ヒートアイ ランド現象	ヒートアイ ランド現象
3 位	リサイクル 可能な資源 の廃棄	世界的な森 林の減少	オゾン層の 破壊	オゾン層の 破壊	オゾン層の 破壊	開発途上国 の公害環境 問題	開発途上国 の公害環境 問題
4 位	オゾン層の 破壊	リサイクル 可能な資源 の廃棄	世界的な森 林の減少	有害化学物 質による環 境汚染	生活の身近 にある自然 の減少	オゾン層の 破壊	生活の身近 にある自然 の減少
5 位	自動車など による大気 汚染	開発途上国 の公害環境 問題	開発途上国 の公害環境 問題	世界的な森 林の減少	開発途上国 の公害環境 問題	世界的な森 林の減少	リサイクル 可能な資源 の廃棄
6 位	開発途上国 の公害環境 問題	自動車など による大気 汚染	有害化学物 質による環 境汚染	開発途上国 の公害環境 問題	有害化学物 質による環 境汚染	リサイクル 可能な資源 の廃棄	自動車など による大気 汚染
7 位	河川、湖沼、 内湾などの 汚染	最終処分場 の逼迫	生活の身近 にある自然 の減少	生活の身近 にある自然 の減少	世界的な森 林の減少	廃棄物の不 適正な処理	オゾン層の 破壊
8 位	工場排水等 による水質 汚濁	生活の身近 にある自然 の減少	廃棄物の不 適正な処理	リサイクル 可能な資源 の廃棄	最終処分場 の逼迫	有害化学物 質による環 境汚染	最終処分場 の逼迫
9 位	廃棄物の不 適正な処理	工場排水等 による水質 汚濁	自動車など による大気 汚染	最終処分場 の逼迫	自動車など による大気 汚染	自動車など による大気 汚染	廃棄物の不 適正な処理
10 位	有害化学物 質による環 境汚染	河川、湖沼、 内湾などの 汚染	河川、湖沼、 内湾などの 汚染	廃棄物の不 適正な処理	工場排水等 による水質 汚濁	工場排水等 による水質 汚濁	工場排水等 による水質 汚濁

2.2.3 西東京市の環境について（問2～問3）

西東京市の環境の満足度（問2）

「まちの静かさ」のみ、「満足」および「やや満足」と回答した割合が50%を超えていた。また、「街路樹、屋敷林、生け垣、公園緑地など緑の豊かさ」や「公共の広場、公園などみどりに関する項目は比較的満足度が高かった。

一方、「河川・水路や池沼などの水のきれいさ」や「水や水辺との親しみやすさ」については「やや不満」、「不満」と回答した人が「満足」、「やや満足」と回答した人を超えており、水に関する評価が低いことが分かった。



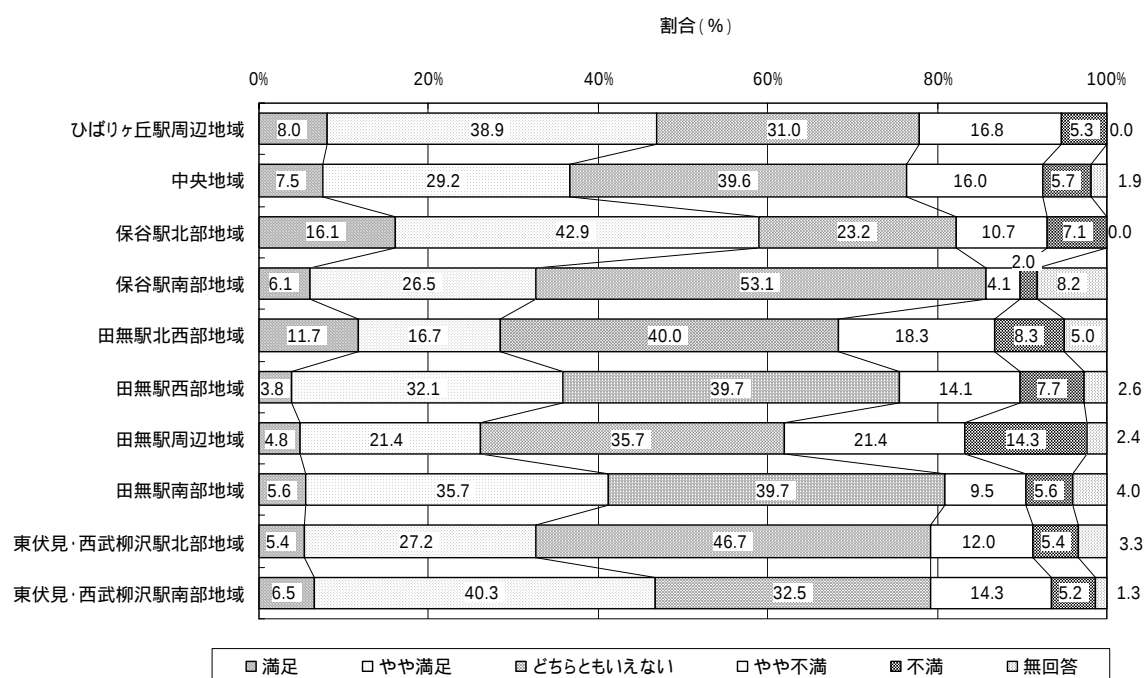
【 地域ごとの回答 】

表 地域の区分と回答者数（n）

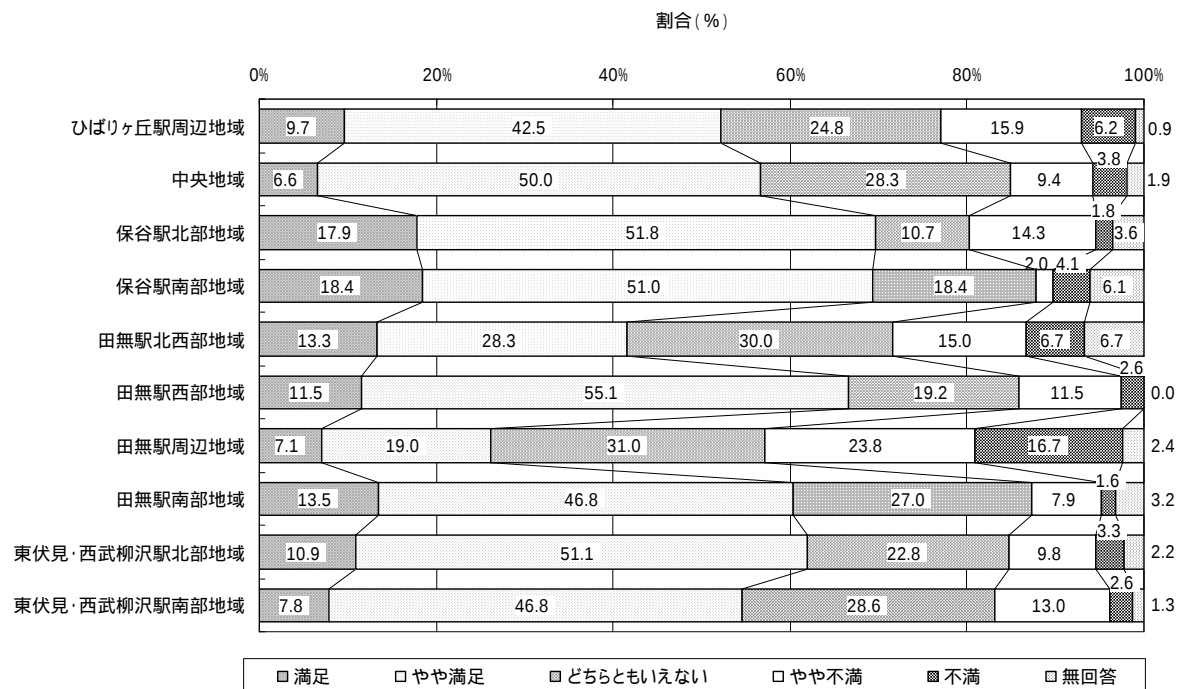
地域区分	該当する地域	回答者数 (n)
ひばりヶ丘駅周辺地域	住吉町 2・3 丁目、ひばりが丘 1～3 丁目、ひばりが丘北 1～4 丁目、栄町 1～3 丁目、緑町 3 丁目、谷戸町 2・3 丁目	113
中央地域	泉町 1～6 丁目、住吉町 1 丁目、住吉町 4～6 丁目、緑町 1・2 丁目、谷戸町 1 丁目、北原町 1～3 丁目	106
保谷駅北部地域	北町 1～6 丁目、下保谷 1～5 丁目	56
保谷駅南部地域	中町 1～6 丁目、東町 1～6 丁目	49
田無駅北西部地域	田無町 7 丁目、西原町 1～5 丁目、芝久保町 4・5 丁目、ひばりが丘 4 丁目	60
田無駅西部地域	田無町 6 丁目、南町 6 丁目、向台町 5・6 丁目、芝久保町 1～3 丁目	78
田無駅周辺地域	田無町 1～5 丁目	42
田無駅南部地域	南町 1～5 丁目、向台町 1～4 丁目、新町 1～6 丁目	126
東伏見・西武柳沢駅北部地域	保谷町 1～6 丁目、富士町 1～6 丁目	92
東伏見・西武柳沢駅南部地域	柳沢 1～6 丁目、東伏見 1～6 丁目	77

（「西東京市都市計画マスタープラン」（平成 16 年 7 月）に記載されている地域区分）

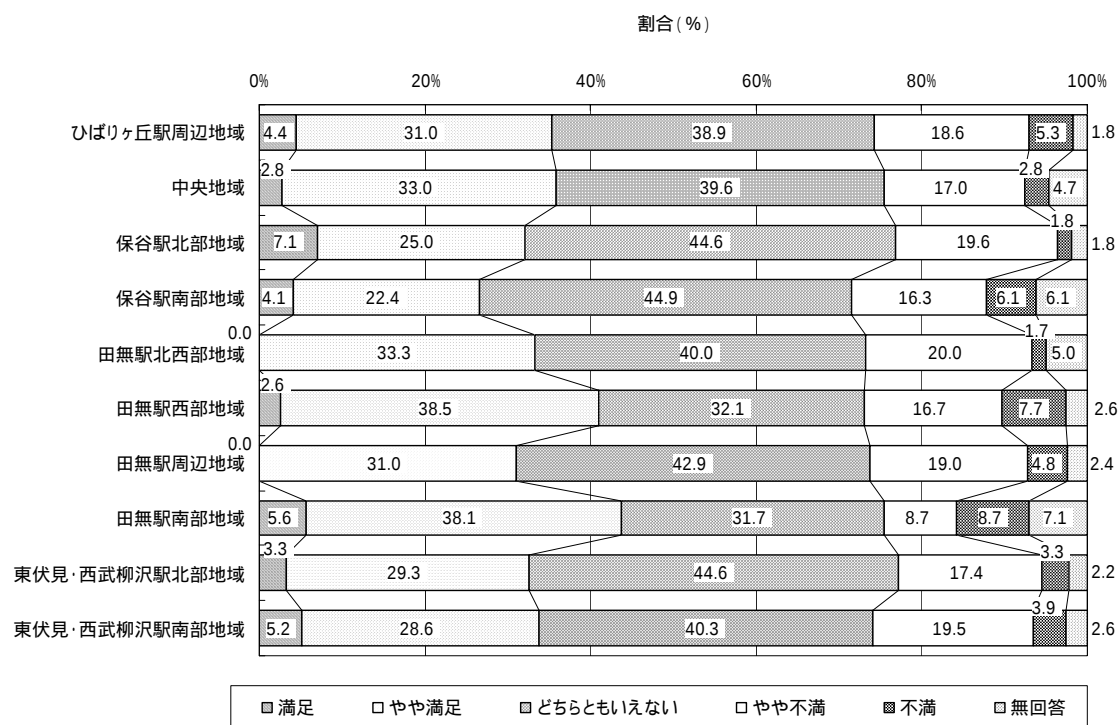
< 空気のきれいさ >



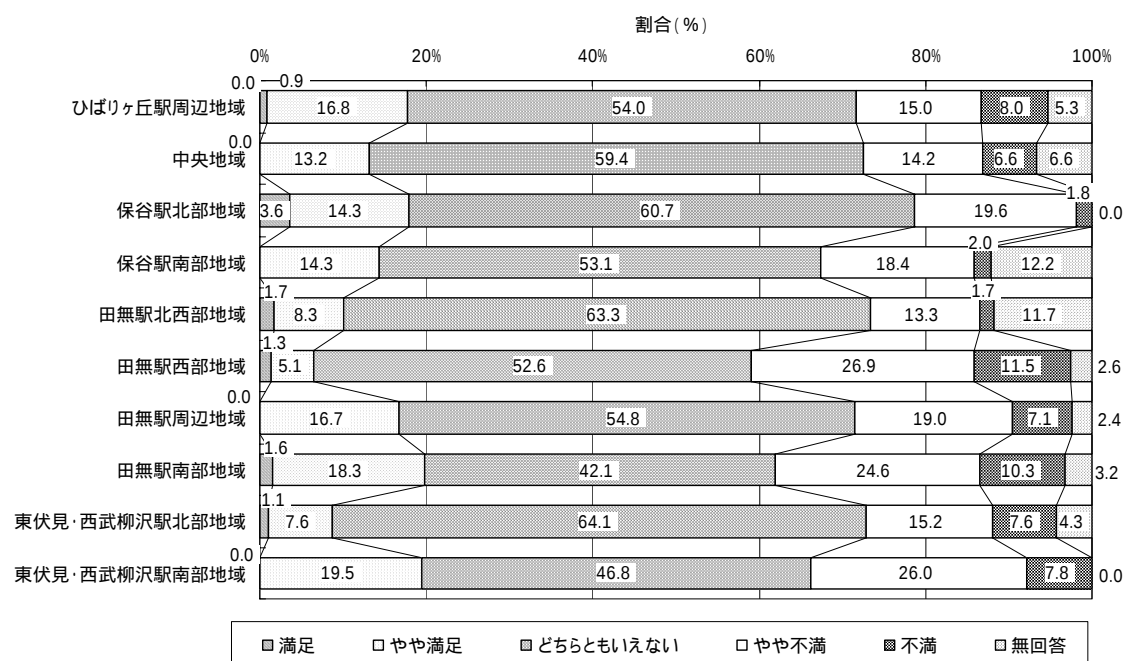
< まちの静かさ >



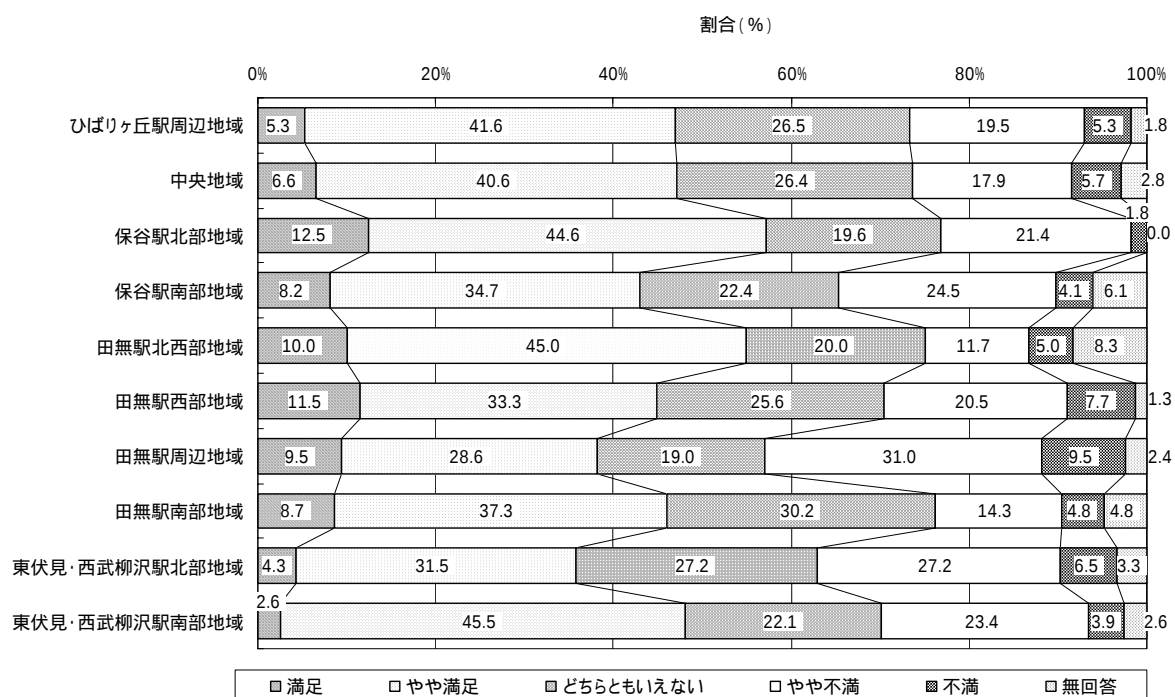
< まちの清潔さ・きれいさ >



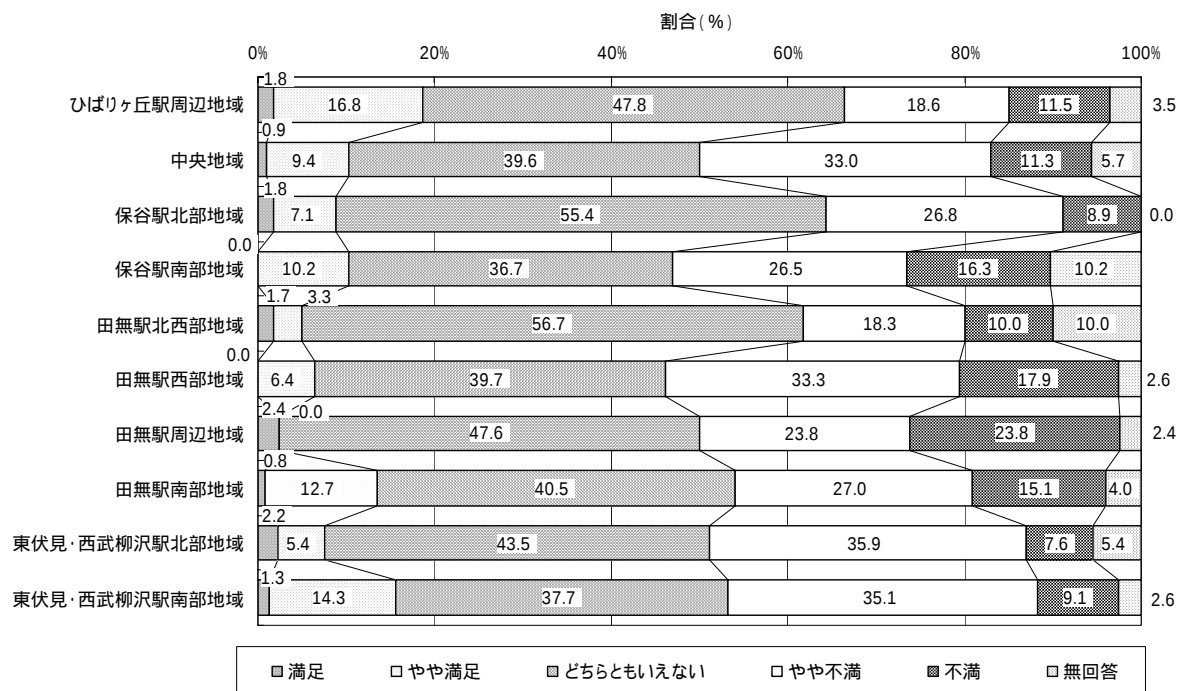
< 河川・水路や池沼などの水のきれいさ >



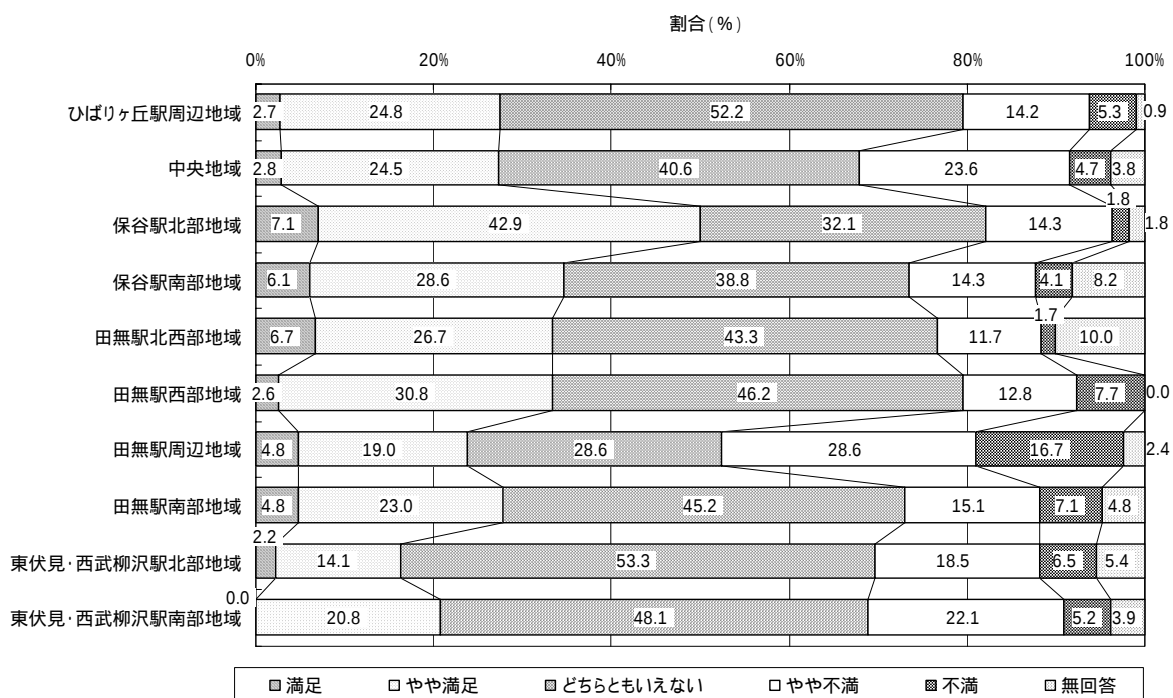
< 街路樹、屋敷林、生け垣、公園緑地など緑の豊かさ >



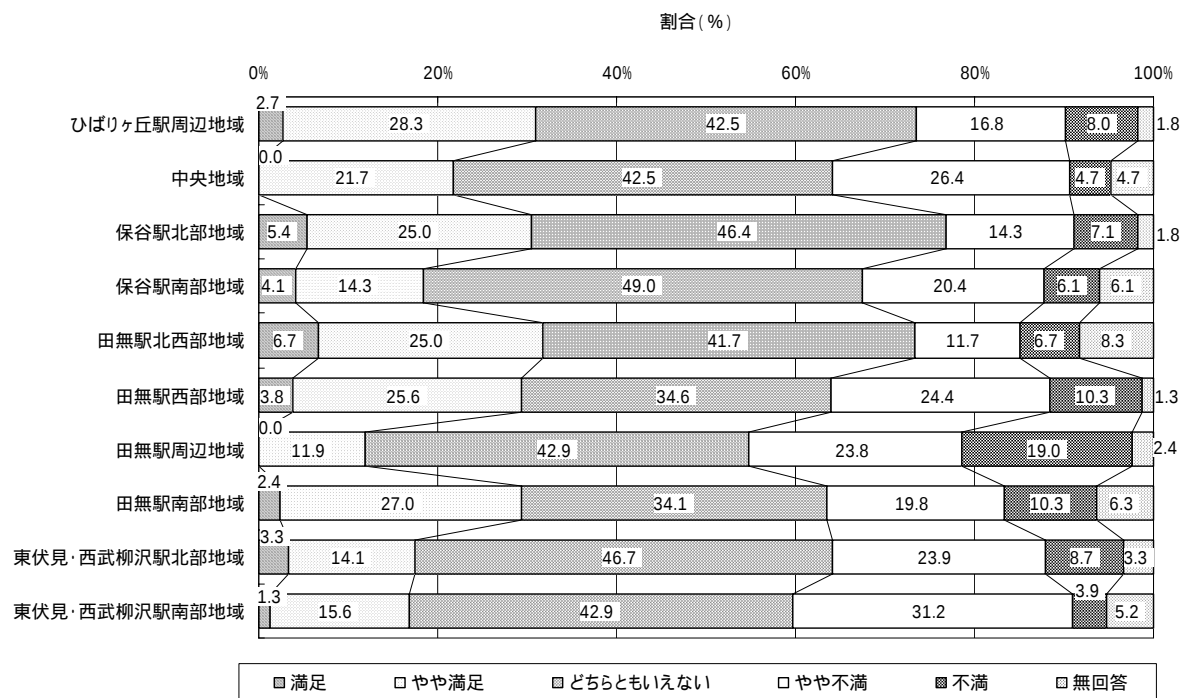
< 水や水辺との親しみやすさ >



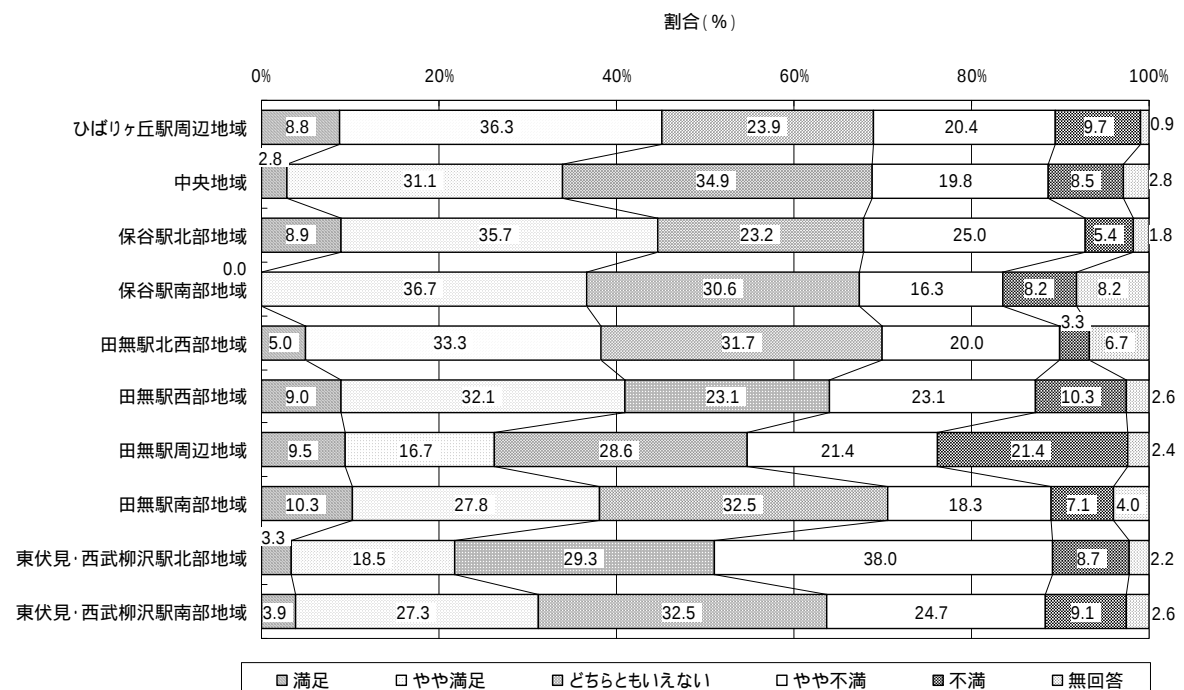
< 農地や土との親しみやすさ >



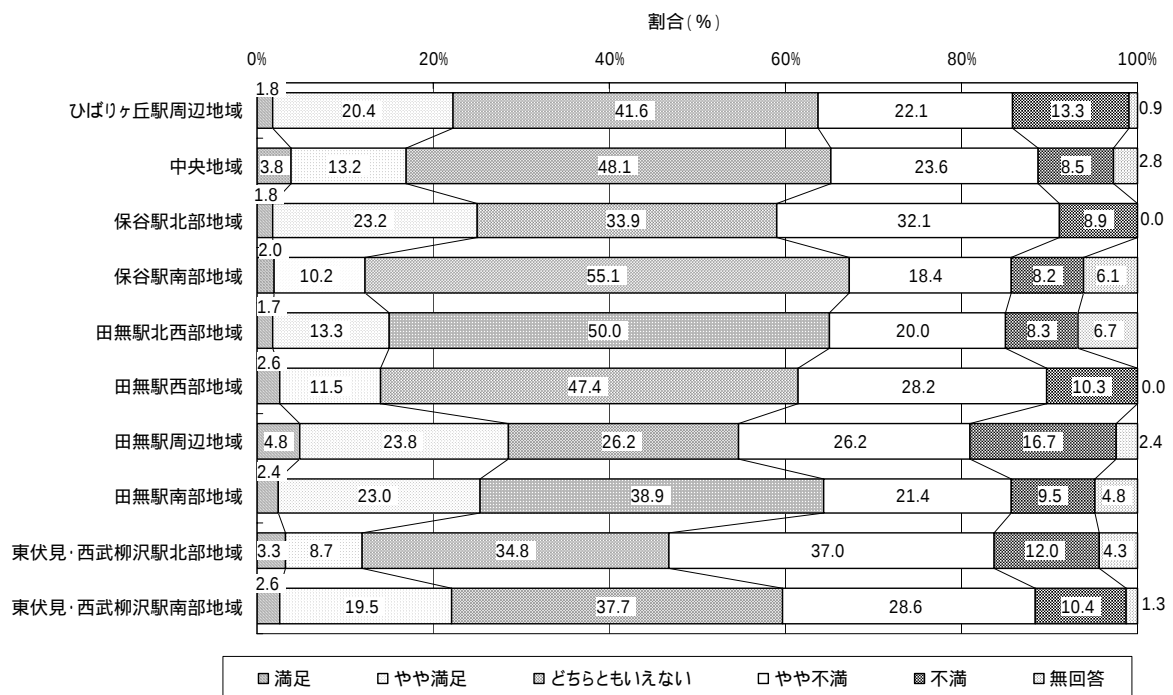
< 野鳥、昆虫、魚などの生きものとの親しみやすさ >



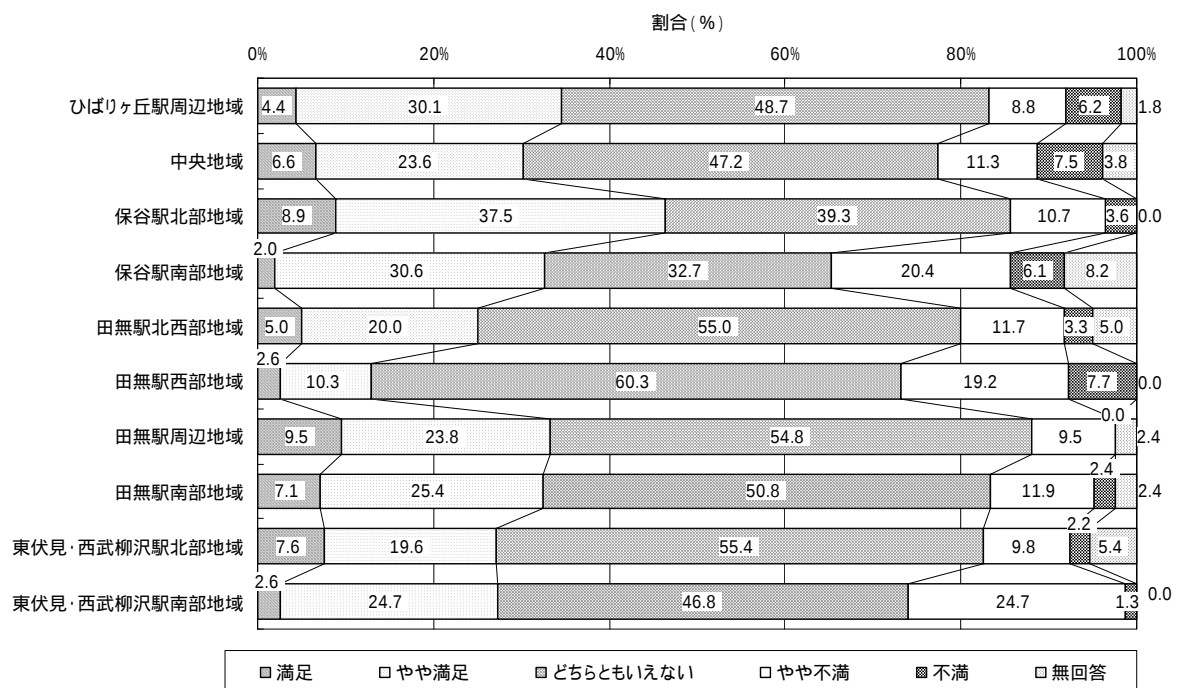
< 公共の広場・公園 >



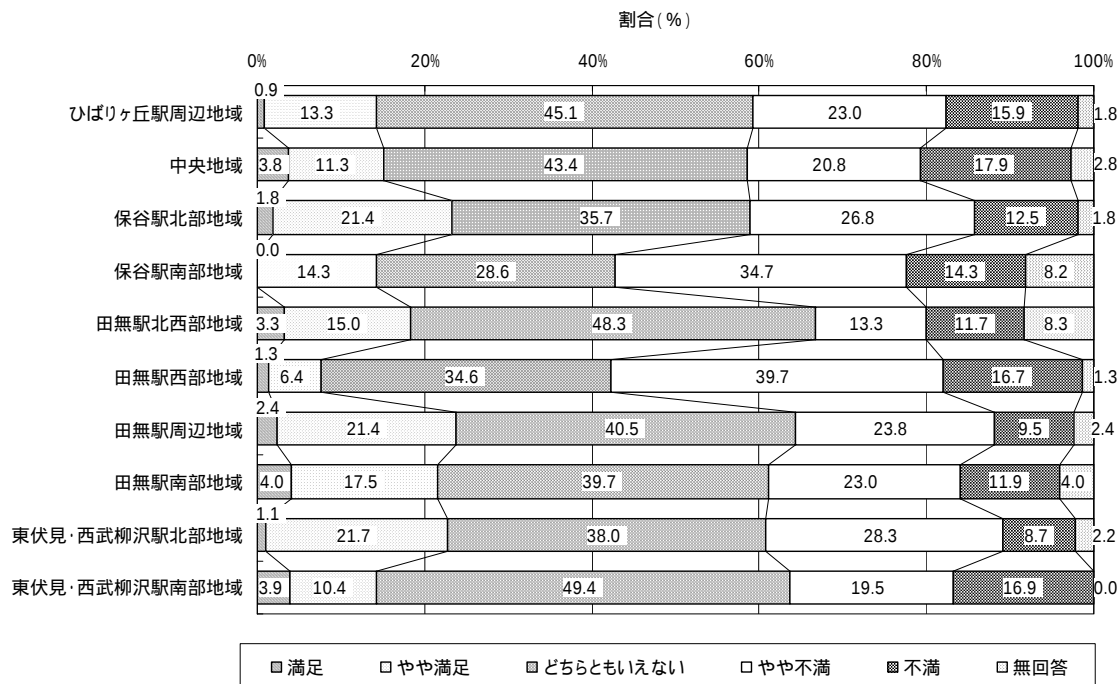
< 自然の眺めやまち並みの美しさ >



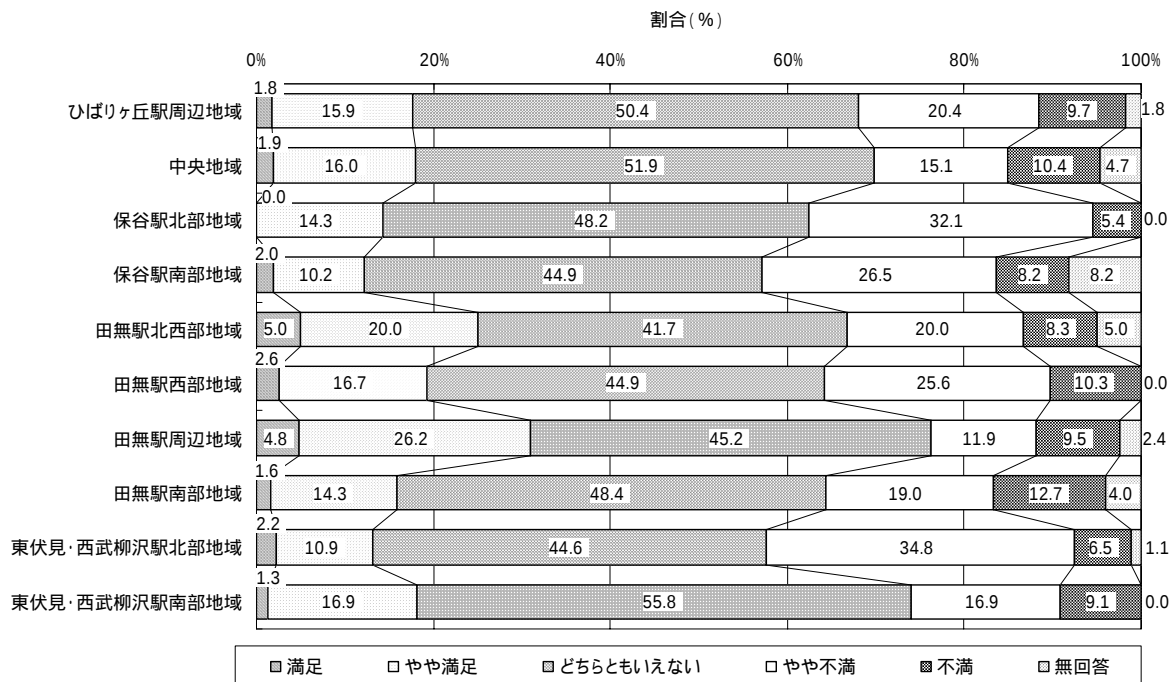
< 災害、水害からの安全性 >



< 交通災害からの安全性 >

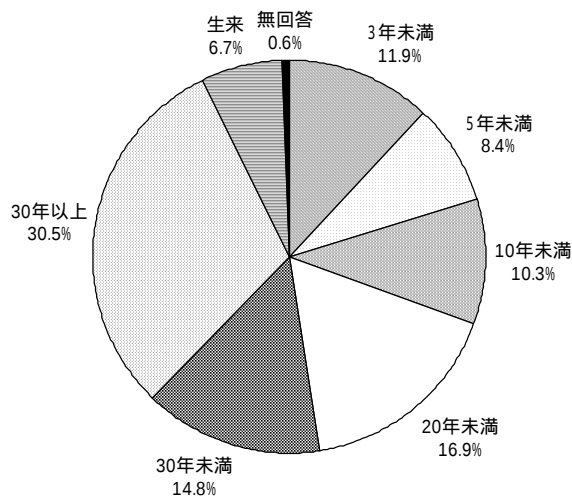


< 環境の状況や施策に関する市からの情報提供 >



居住年数（問3）

「30年以上」が最も多く（30.5%）、「20年未満」（16.9%）、「30年未満」（14.8%）と続いている。居住年数が10年以上の回答者が60%以上であった。

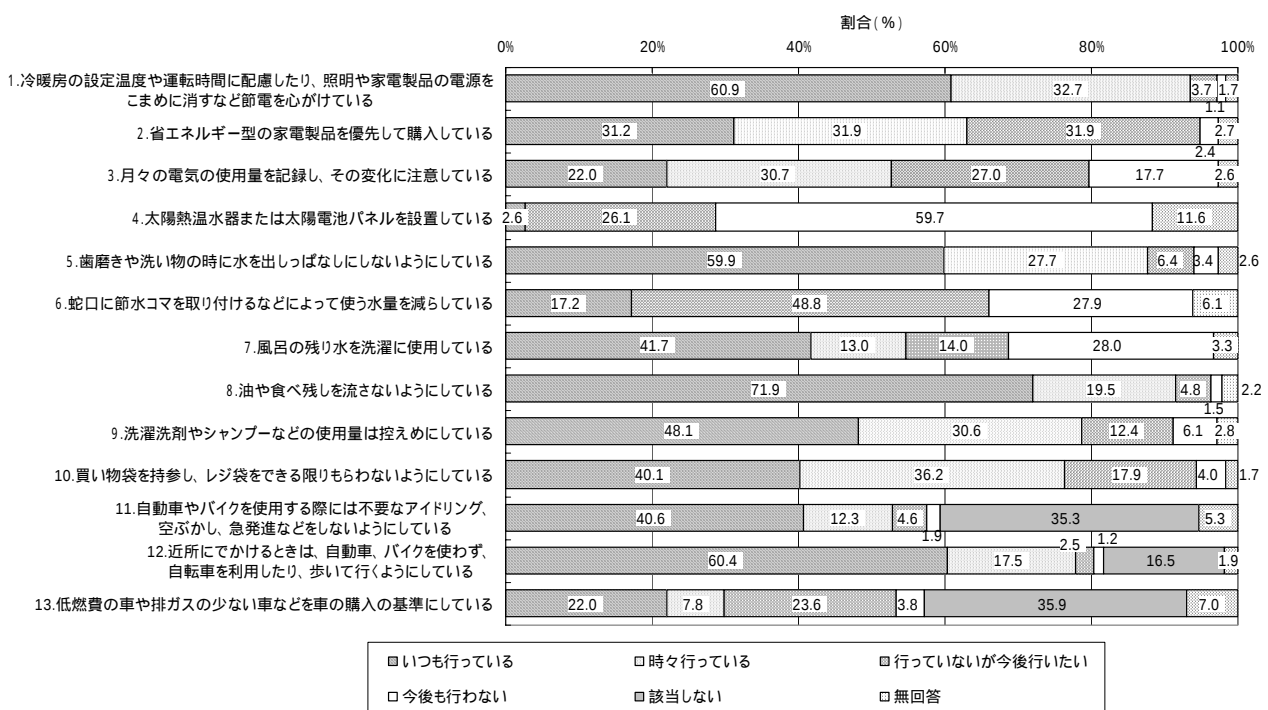


2.2.4 日常の行動について（問4～問6）

家庭での取り組み（問4）

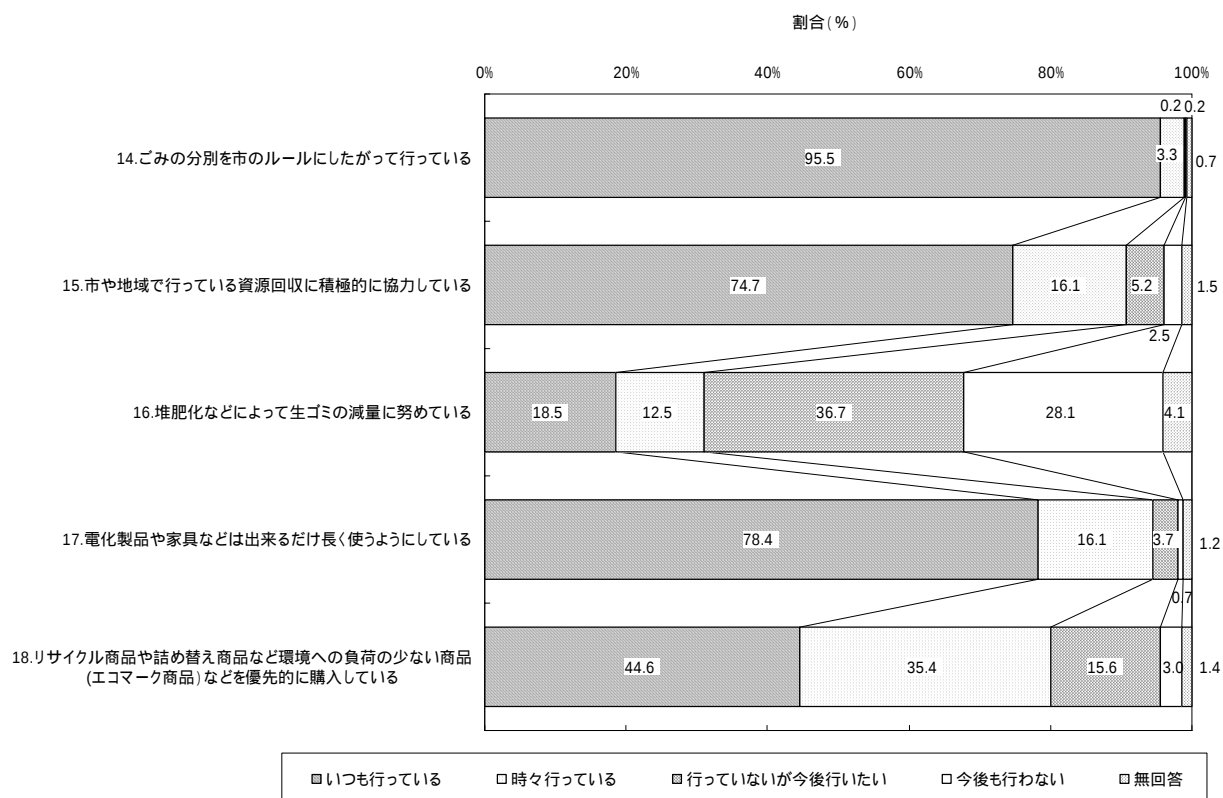
<地球温暖化・ヒートアイランド>

日常生活の中で心がけることによって行うことのできる項目（選択肢1～3、5、7～12）は、50%以上の人が「いつも行っている」または「時々行っている」と回答していた。一方で、選択肢4、6、13といった、取り組むために新たに製品などを購入する必要があるものについては比較的取り組みが進んでいなかった。



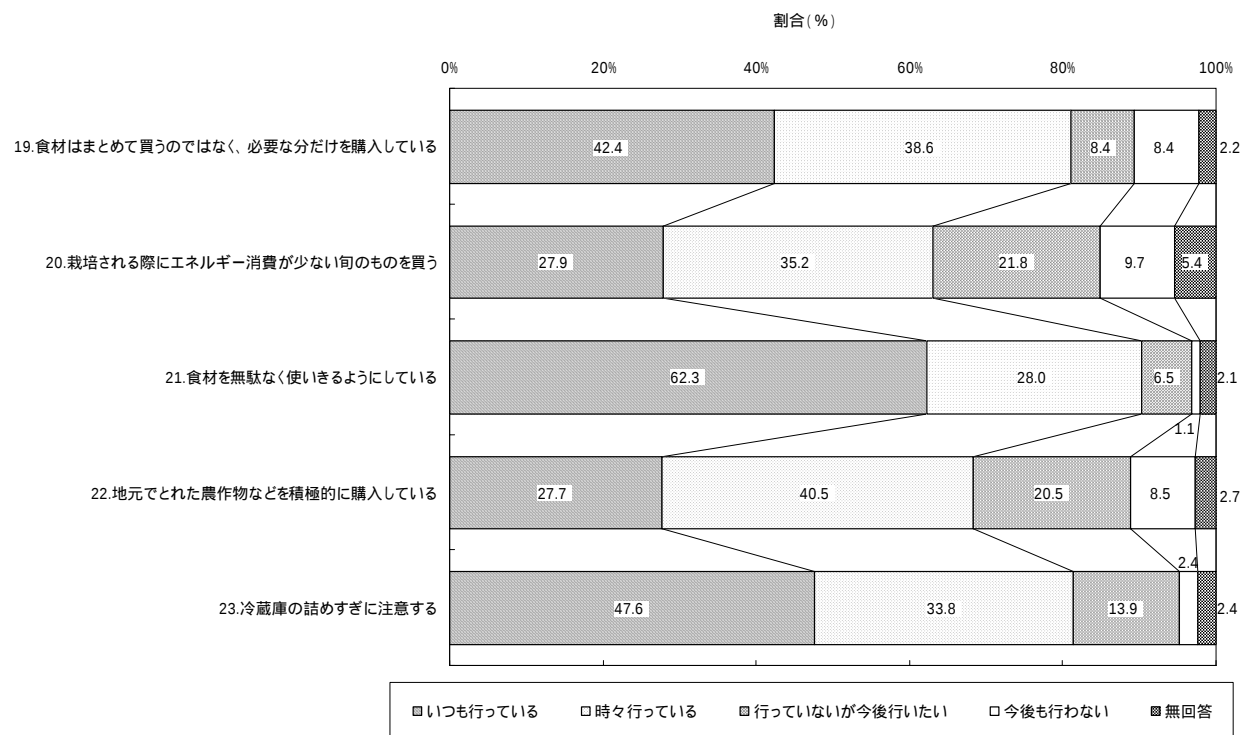
< 廃棄物・リサイクル >

95%以上の人が「ごみの分別を市のルールにしたがって行っている」に対して、「いつも行っている」と回答した。また、80%以上の人が、「市や地域で行っている資源回収に積極的に協力している」に対して「いつも行っている」または「時々行っている」と回答しており、廃棄物・リサイクルに関する市の取り組みが広く行き渡っていることが分かった。



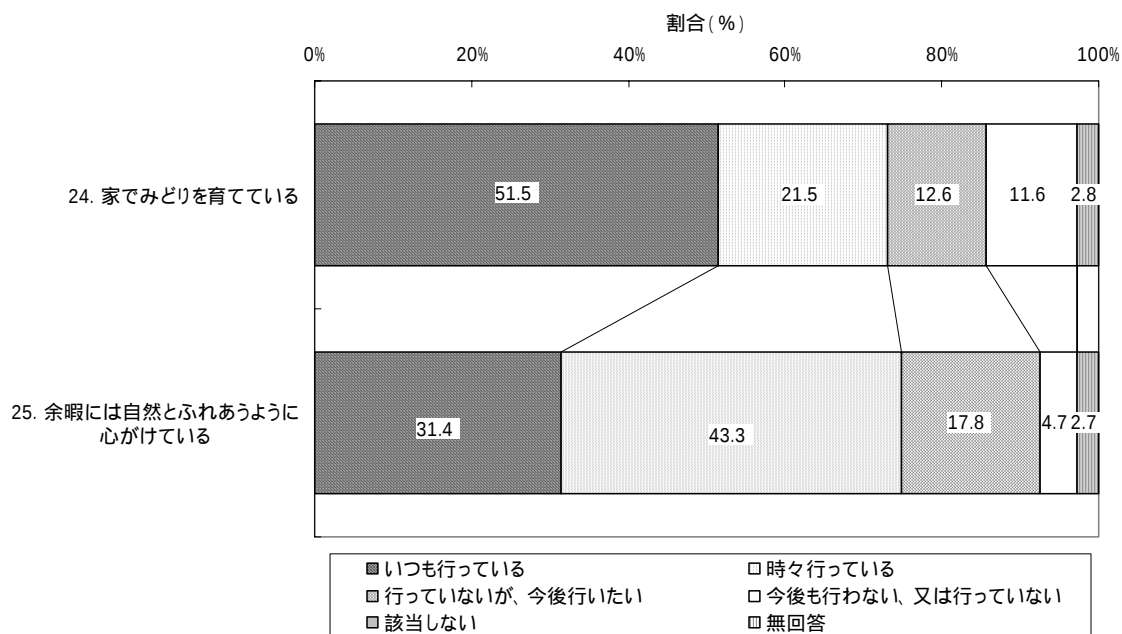
<エコ・クッキング>

すべての項目について、「いつも行っている」または「時々行っている」と回答した人が過半数を超えていた。特に、「食材はまとめて買うのではなく、必要な分だけを購入している」、「食材を無駄なく使いきるようにしている」、「冷蔵庫の詰めすぎに注意する」については、80%以上が「いつも行っている」または「時々行っている」と回答していた。



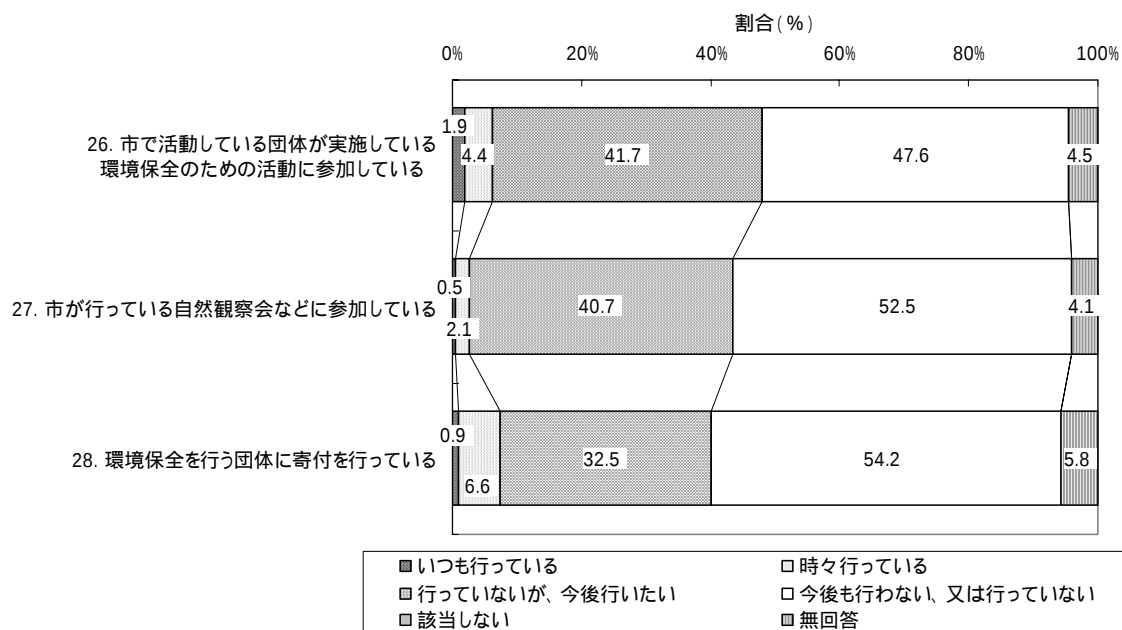
<みどり>

どちらの項目についても、70%以上の人々が、「いつも行っている」または「時々行っている」と回答していた。特に、「家でみどりを育てている」については、50%以上の回答者が「いつも行っている」と回答した。



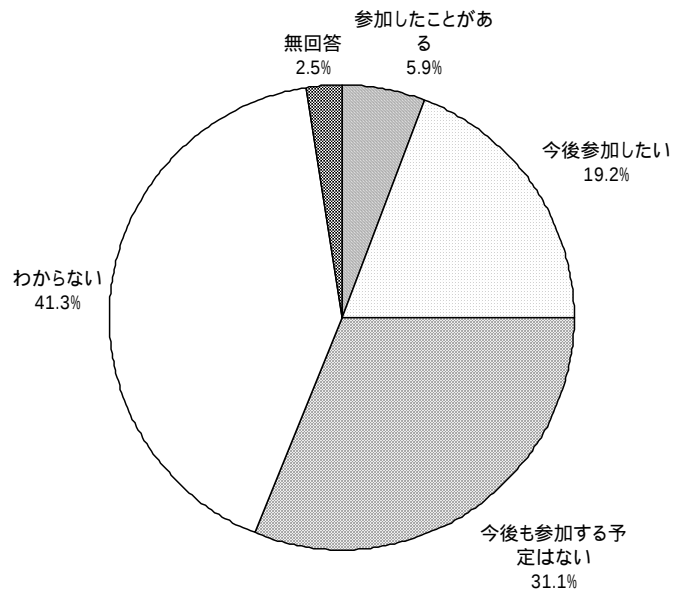
<団体活動への参加>

すべての項目について、「いつも行っている」または「時々行っている」と回答した人は、10%未満であった。特に、「環境保全を行う団体に寄付を行っている」、「市が行っている自然観察会に参加している」については、過半数が「今後も行わない」と回答していた。



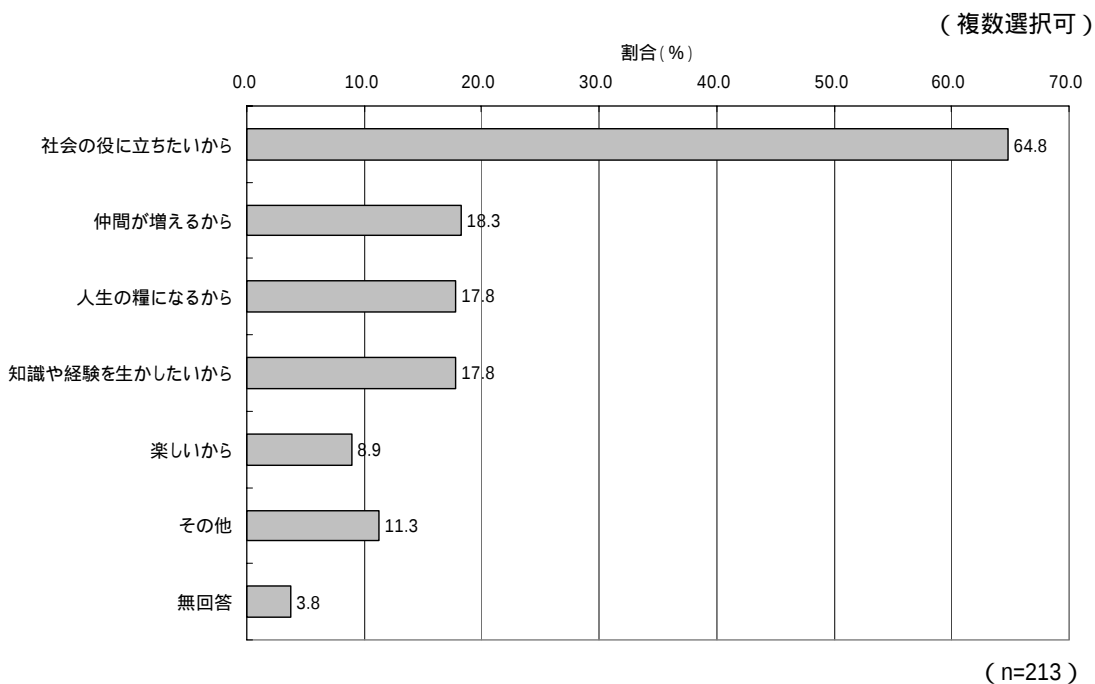
地域での環境保全活動の参加経験（問5）

「わからない」という回答が最も多く（41.3%）、「今後も参加する予定はない」（31.1%）と続いている。「参加したことがある」と回答した人は5.9%であった。



環境保全活動に参加したいと思う理由（問6）

約3分の2の人が「社会の役に立ちたいから」と回答した。「仲間が増えるから」（18.3%）、「人生の糧になるから」（17.8%）、「知識や経験を生かしたいから」（17.8%）の順に続いている。



その他の意見としては、自分の街を自分たちで守りたいというもの、将来のことを考えて参加したいというものが多くみられた。

【 自由意見 】

■ 自分たちの街を自分たちで守りたい

- ・自分の街を大事にしたい。
- ・自分の住んでいる所だから。
- ・自分達の周りの環境を良くするのは当たり前のことだから。
- ・税金を使わずに市民の力で出来ることをしたい。
- ・地域の環境を守って行かなくてはいけないと最近強く思うから。

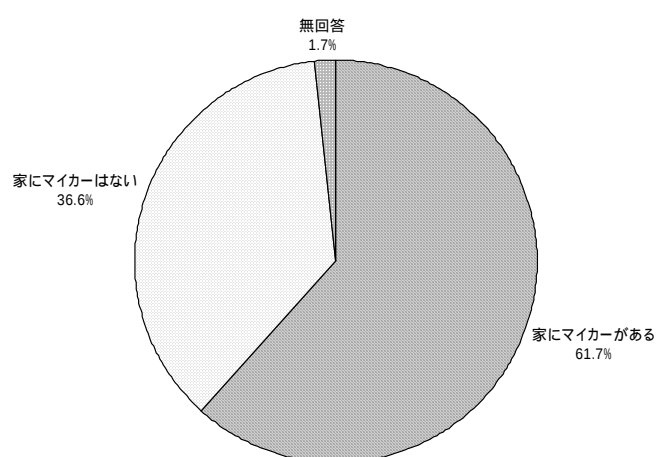
■ 将来の事を考えて参加したい

- ・環境の悪化は困るから。
- ・自然環境が日に日に減少して行くことは忍びないので。
- ・生まれくる子供達のために。
- ・地球全体について危機感を強く抱いている。
- ・未来の子供達のために。
- ・未来の地球のため。

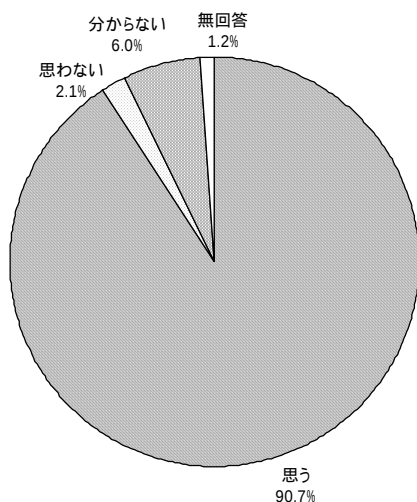
2.2.5 交通手段および地域の交通体系のあり方について（問7～問10）

マイカーの有無、台数（問7）

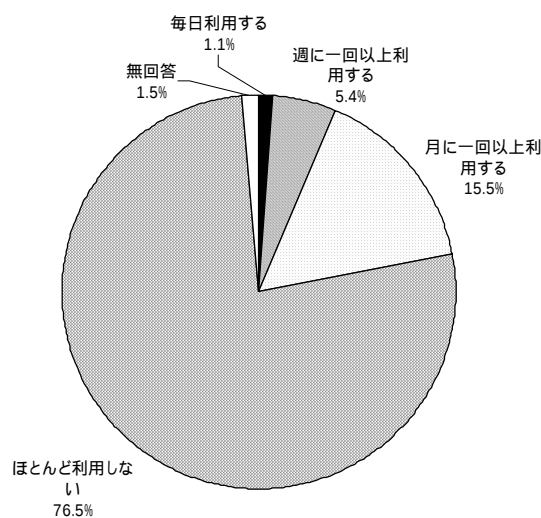
約60%の回答者がマイカーを所有していた。前回のアンケートと比較すると、マイカーを保有している人は4.5%減少し、逆にマイカーを保有していない人が5.8%増加した。



自転車、公共交通機関の利用（問 8）



コミュニティバス（はなバス）の利用頻度（問 9）

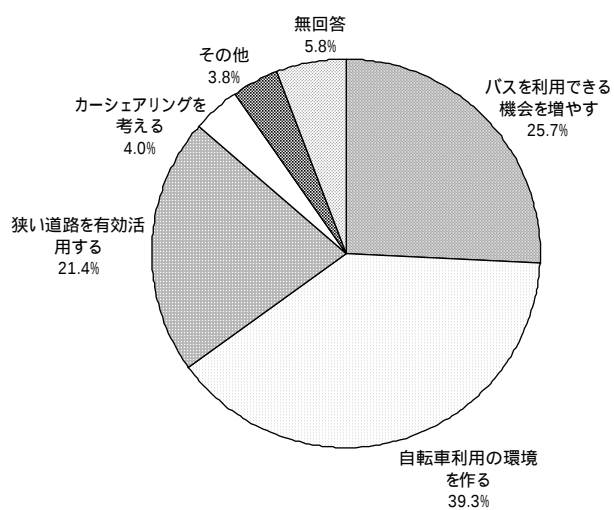


90%を超える回答者が、自転車や公共交通機関を利用した方が環境によいと考えている。

また、はなバスの利用に関しては、約 4 分の 1 の回答者が「利用する」と回答し、その中の約 3 分の 1（全体の 6.5%）が「毎日利用している」または「週に 1 回以上利用している」と回答した。

交通体系のあり方についてまず取りかかるべきもの（問 10）

「自転車利用の環境を作る」と回答した人が最も多く（39.3%）、「バスを利用できる機会を増やす」（25.7%）、「狭い道路を有効活用する」（21.4%）と続いている。



自由意見としては、はなバスの利用環境の向上を望むもの、道路の改善を望むものが多くみられた。

【 自由意見 】

■ はなバスの利用環境の向上

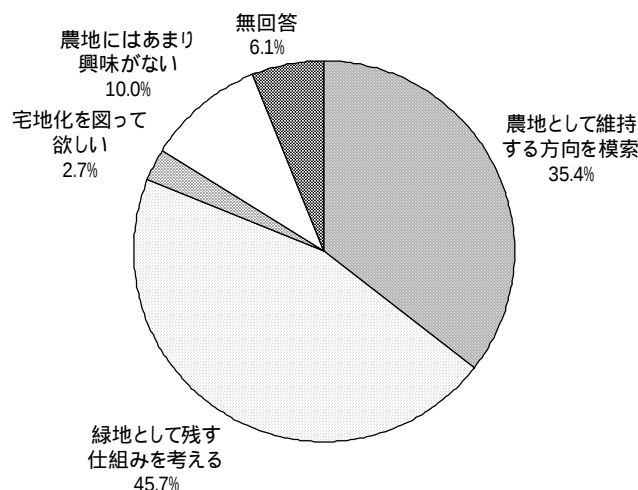
- ・「はなバス」の停留所がない。
- ・「はなバス」は路線バスが通っていない所を運行し、日中は小型バスを走らせる。
- ・家の近所まで来て欲しい。
- ・田無駅から西東京中央病院へ「はなバス」が運転できれば良い。
- ・田無駅への「はなバス」を1日午前午後の2本でもよいので走らせてください。

■ 道路の改善

- ・安全に歩道を歩ける町にして欲しい。
- ・狭い道を広くする。
- ・広い道路網の整備による交通渋滞の緩和。
- ・自転車可の標識がない歩道での自転車通行が多いのは危険だと思う。
- ・田無への交通量集中を減らすための道を整備する。
- ・道路の拡張。
- ・歩道が狭く自転車が乗りづらい。
- ・歩道を自転車に乗っている人が多すぎて歩行者が危ない。
- ・歩道脇の植え込みが高いため、車からは子供や自転車の飛び出しが見えず危険。
- ・開かずの踏切の解消。

2.2.6 農地の今後のあり方について（問 11）

「緑地として残す仕組みを考える」という回答が最も多く（45.7%）、「農地として維持する方向を模索」（35.4%）と続いており、前回のアンケートと同様の傾向がみられた。



農地を維持するための具体的なアイデアとして、以下のものが多く挙げられた。

【 自由意見 】

■ 市民農園、家庭菜園として一般開放

- ・家庭菜園として一般に公開し、募集する。
- ・家庭菜園等の広報を今以上に積極的に行い、農地を維持することの意義を市民に理解してもらう。
- ・市民農園として開放してもらいたい。
- ・農業後継者がいないのなら農地を市民農園などに開放して農地や緑を保存する。

■ 優遇処置をとる

- ・税金などの面で優遇する等。
- ・相続税を減らす。

■ 食育に利用

- ・地域の子供たちが遠足などで農地に触れ、農家の方と交流できたら野菜をもっと身近に感じるのではないかな。
- ・幼稚園や小中学校で農地に触れる機会を沢山持った方が良いと思います。食育の一環として。

また、農地として残せなくても緑地として残すためのアイデアとして、以下のものが多く挙げられた。

■ 公園として利用

- ・公園などとし、植林などを沢山行って、もっと緑を多く。
- ・公園にする。
- ・公園にするなど地域の緑地としたり、子供たちが自然と触れあえるような場所として開放して欲しい。
- ・緑の公園や広場など人の集まれる場所がよい。

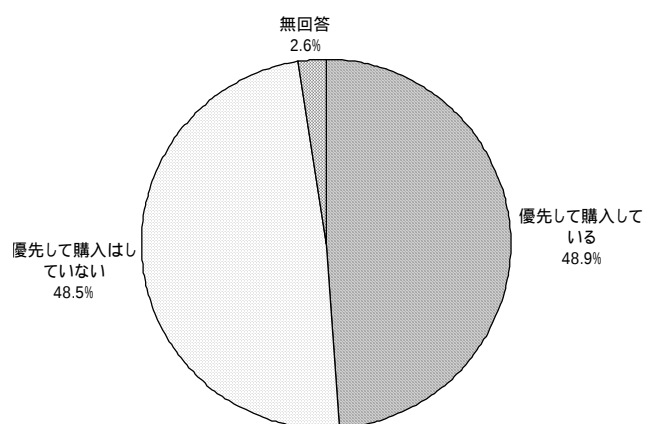
■ 市民への貸し出し

- ・一般市民に農地開放。
- ・貸し農業地として利用したい。
- ・市民農園として市で借り上げ住民に貸し出す。

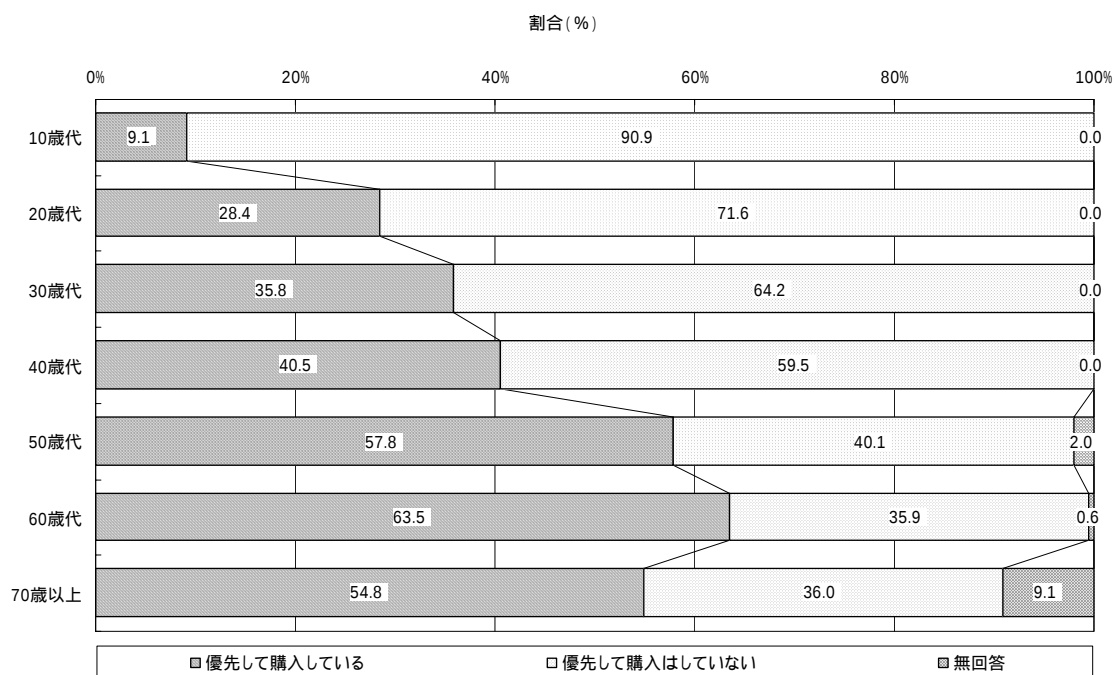
2.2.7 近隣地域の農産物について（問 12～問 14）

近隣地域の農産物の優先的な購入（問 12）

ほぼ半数の人が、「優先して購入している」と回答している。

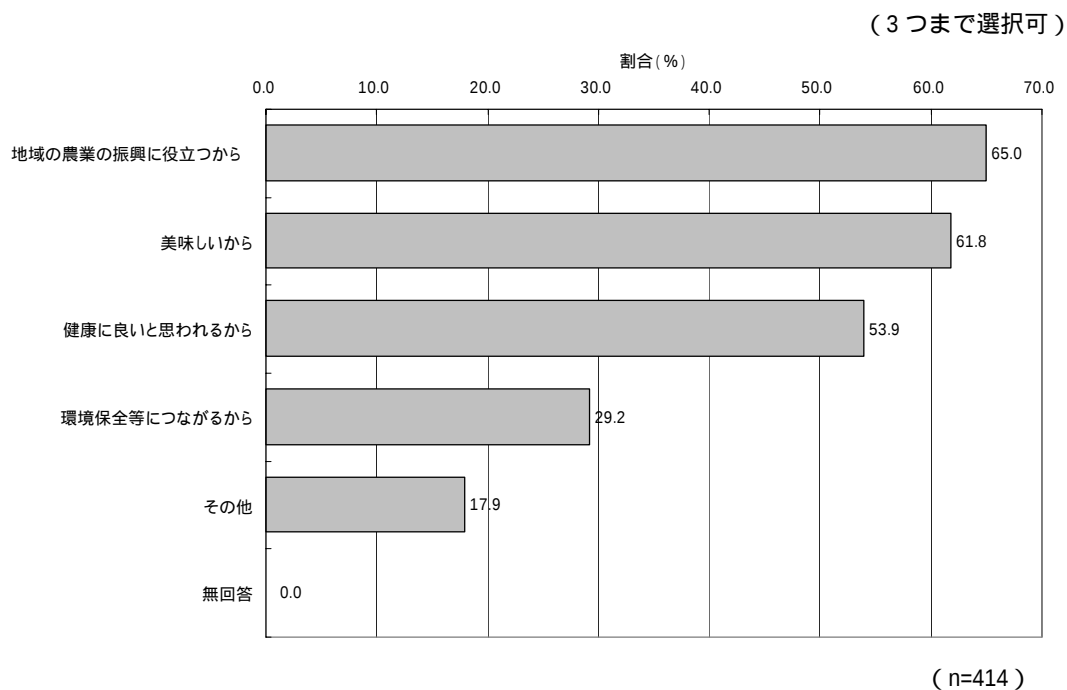


【 年代別回答 】



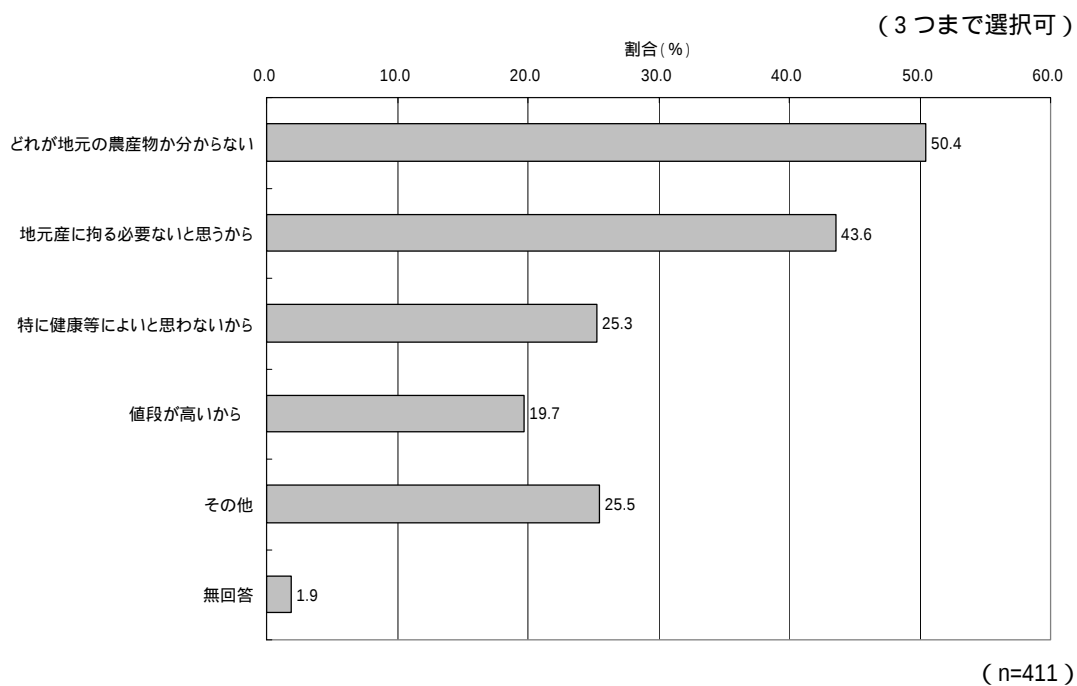
近隣地域の農産物の購入理由（問 13）

約3分の2の人が「地域の農業の振興に役立つから」と回答していた。「美味しいから」（61.8%）、「健康に良いと思われるから」（53.9%）の順となっている。「環境保全等につながるから」と回答した人は29.2%であった。



購入しない理由（問 14）

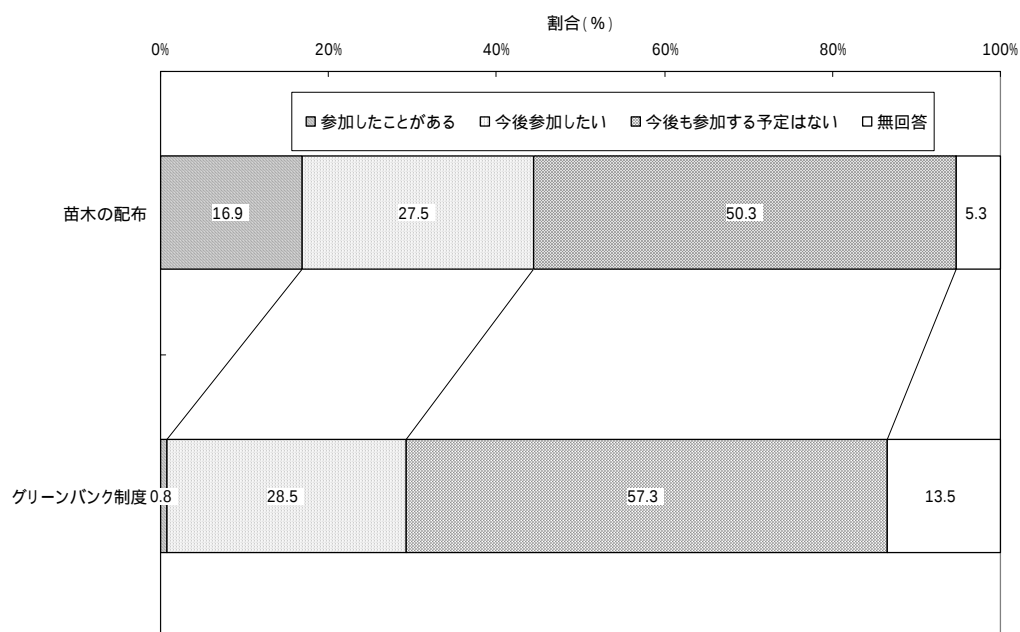
過半数の人が、「どれが地元の農産物が分からない」と回答していた。「地元産に拘る必要がないと思うから」（43.6%）、「特に健康等によいと思わないから」（25.3%）と続いている。



2.2.8 みどりを守るための活動について（問 15～問 16）

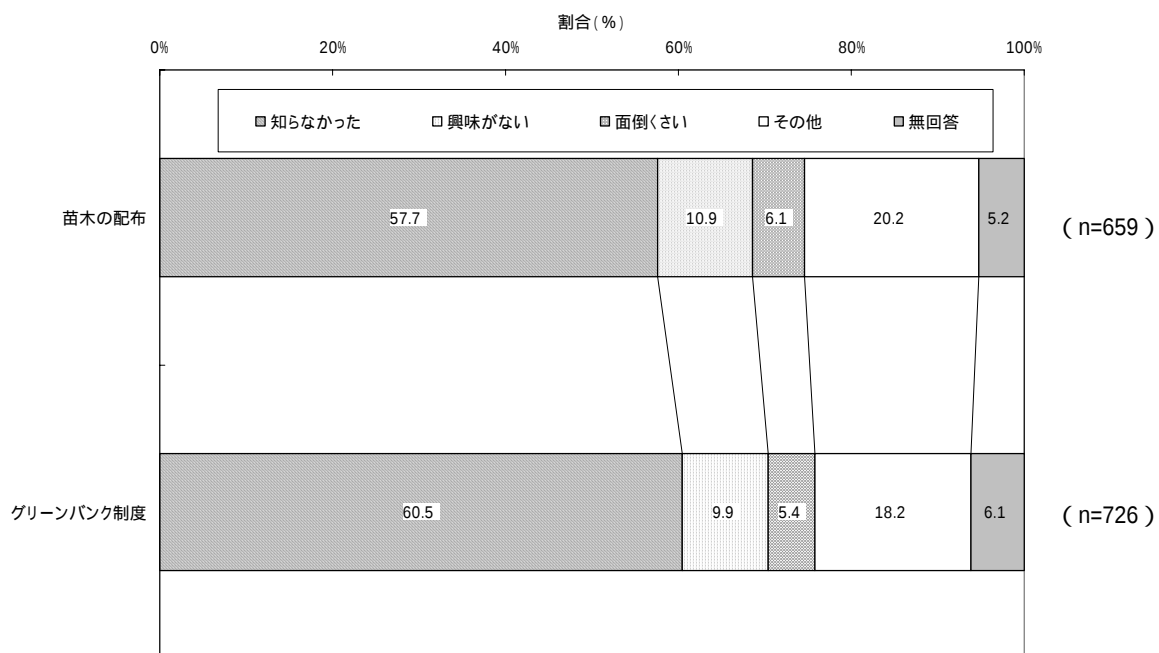
みどりを守るための活動の参加経験（問 15）

「苗木の配布」、「グリーンバンク制度」に参加したことがあると回答した人はそれぞれ 16.9%、0.8%であった。過半数の人が、「今後も参加する予定はない」と回答していた。



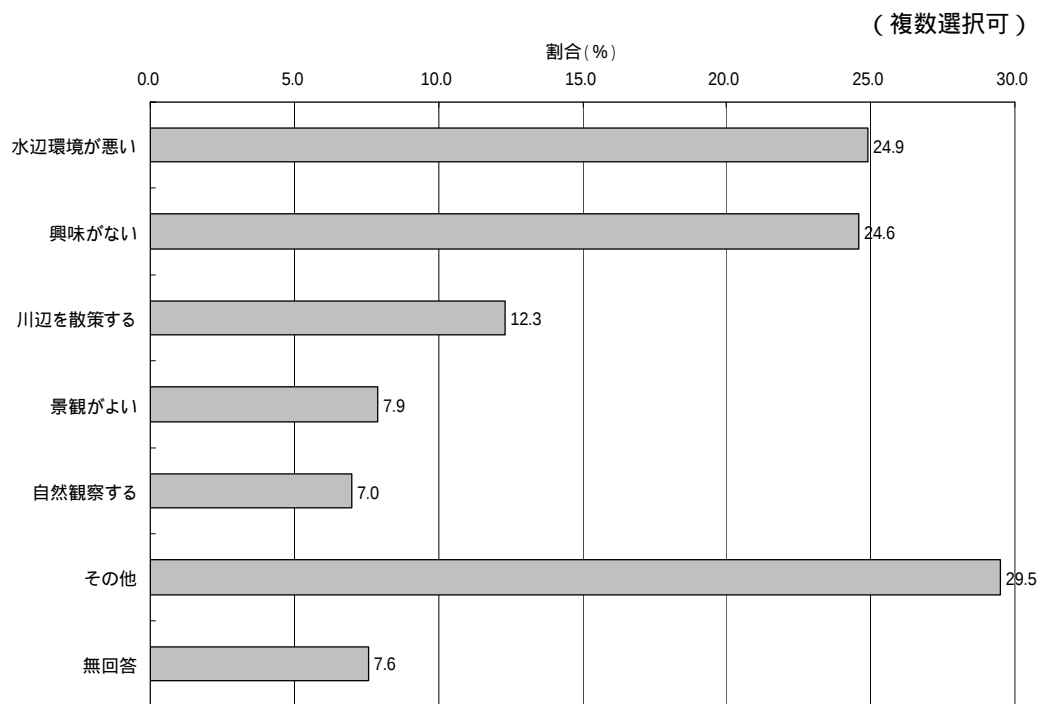
参加したことがない、参加しない理由（問 16）

苗木の配布、グリーンバンク制度ともに半数以上の人「知らなかった」と回答した。



2.2.9 石神井川との関わりについて（問 17）

石神井川については、「水辺環境が悪い」と回答した人が最も多く（24.9%）、「興味がない」（24.6%）と続いている。一方、「川辺を散策する」、「自然観察する」といった、石神井川と関わりを持つような活動を行っている人は、それぞれ 12.3%、7.0%であった。



その他の意見としても、川が汚れているというものが多くみられた。

【 自由意見 】

■ 川の汚れ

- ・汚い／臭う。
- ・ゴミなど捨てず川を大切にしたい。
- ・川が汚れているので浄化を望む。
- ・川というより排水路。
- ・魚が棲む川に戻してあげたい。
- ・観察、散策する造りではない。
- ・親水できるようにはなっていないが川だとは分かる。

■ 川との関わり

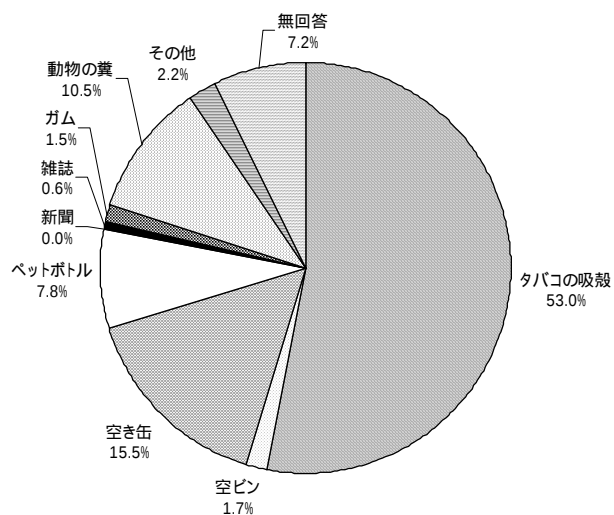
- ・石神井川がどこにあるのか知らない。
- ・行ったことがない／見たことがない。
- ・関わりがない。
- ・分からない。
- ・あまり行かない。

2.2.10 ポイ捨て及び歩行者喫煙について（問 18～問 21）

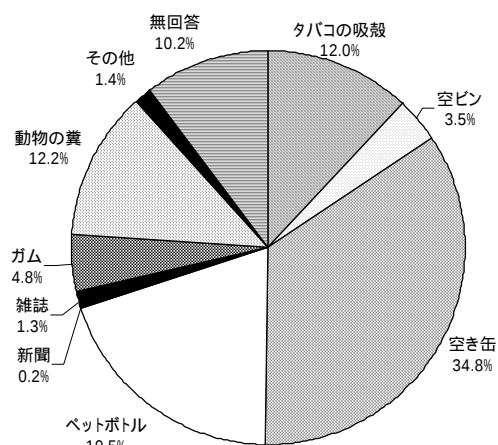
西東京市内でポイ捨てが目立つゴミ、資源物等（問 18）

「タバコの吸い殻」、「空き缶」、「ペットボトル」、「動物の糞」の順に目立つという意見が多くみられた。

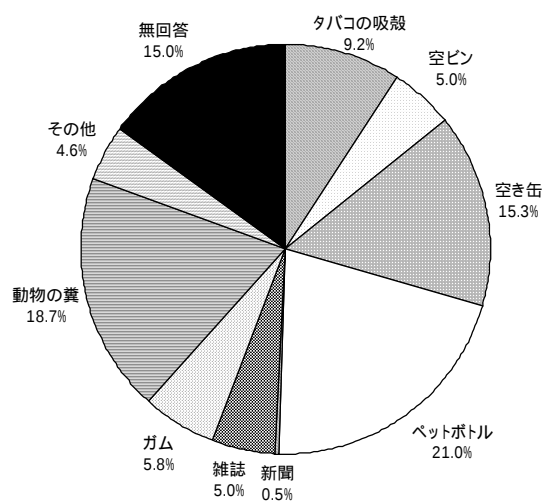
< 1 位 >



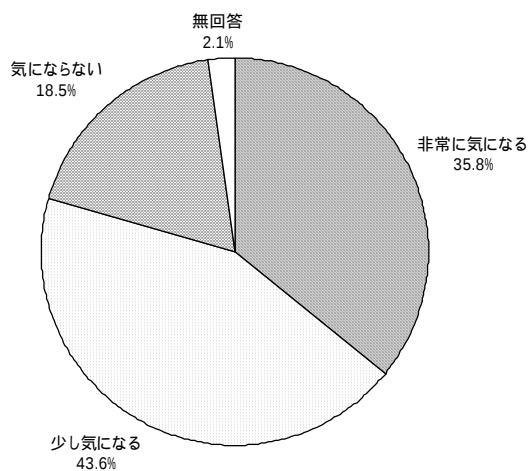
< 2 位 >



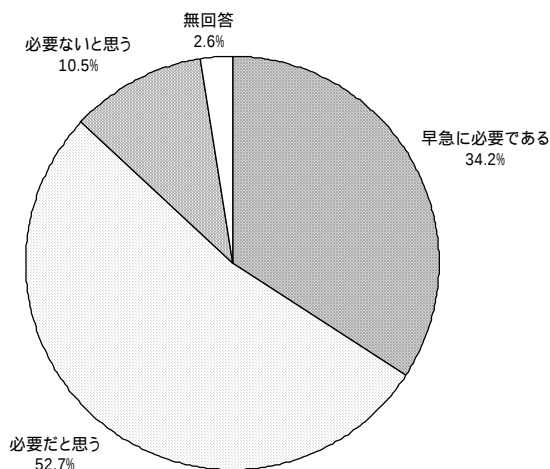
< 3 位 >



歩行喫煙について（問 19）



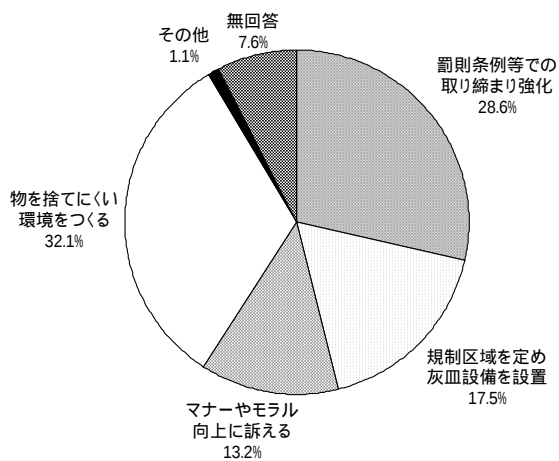
ポイ捨て、歩行喫煙の対策の必要性（問 20）



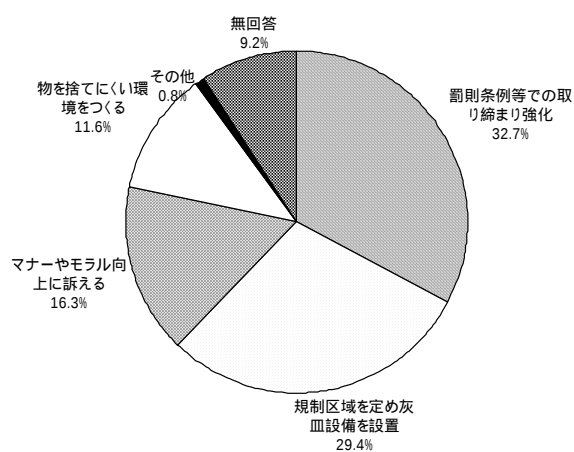
約 80%の人が歩行喫煙に対し、「非常に気になる」または「少し気になる」と回答していた。また、85%を超える人がポイ捨て、歩行喫煙の対策が「早急に必要である」または「必要だと思う」と回答した。

ポイ捨て対策、歩行喫煙対策の方法（問 21）

< ポイ捨ての対策方法 >



< 歩行喫煙の対策方法 >

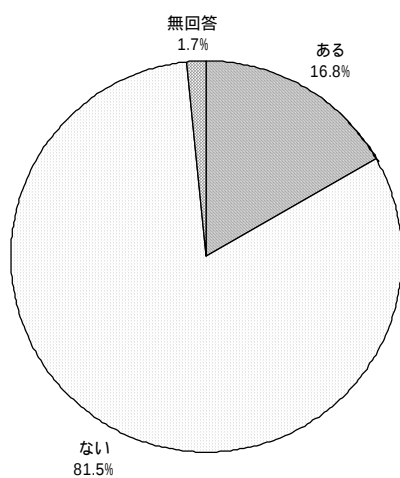


どちらについても、「罰則条例等で取り締まりを強化した方がよい」、「規制区域を定め、灰皿設備を設置する」といった、市が主導して進めていく項目に対する回答が多くみられた。

2.2.11 市が行う事業について（問 22～問 25）

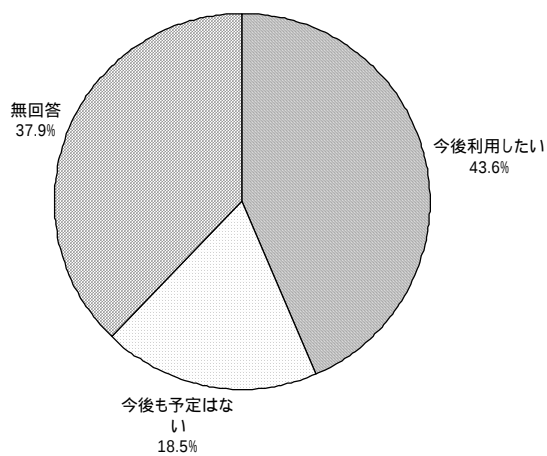
散策マップの利用（問 22）

80%以上の人が、散策マップを利用したことが「ない」と回答した。



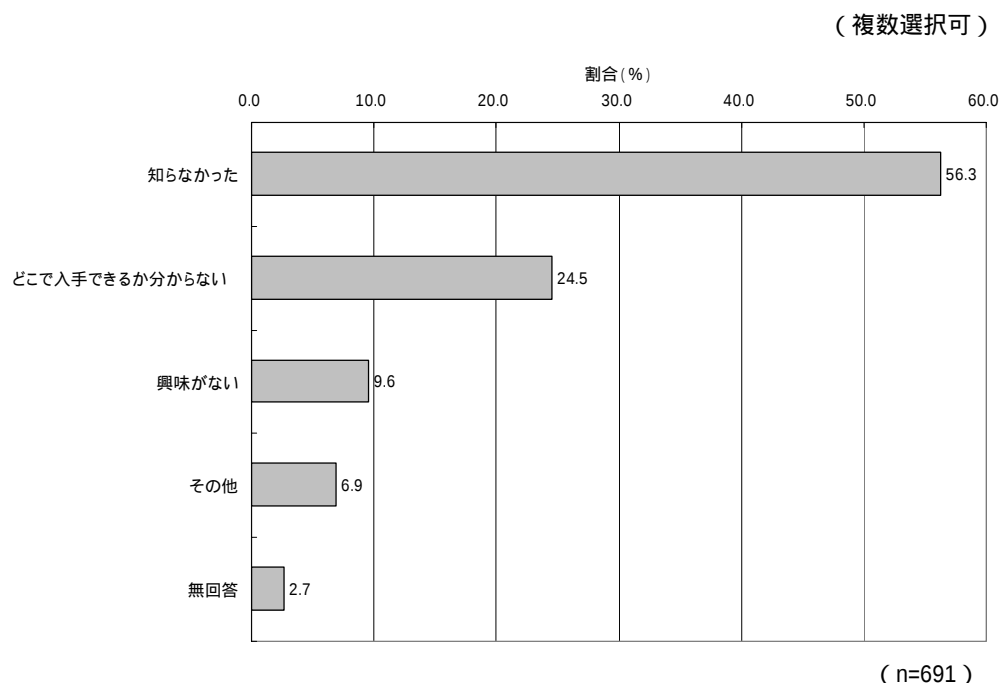
散策マップを利用したことがない人の今後の利用可能性（問 22）

今後利用したいと回答した人（43.6%）が、今後も予定はないと回答した人（18.5%）を大きく上回った。



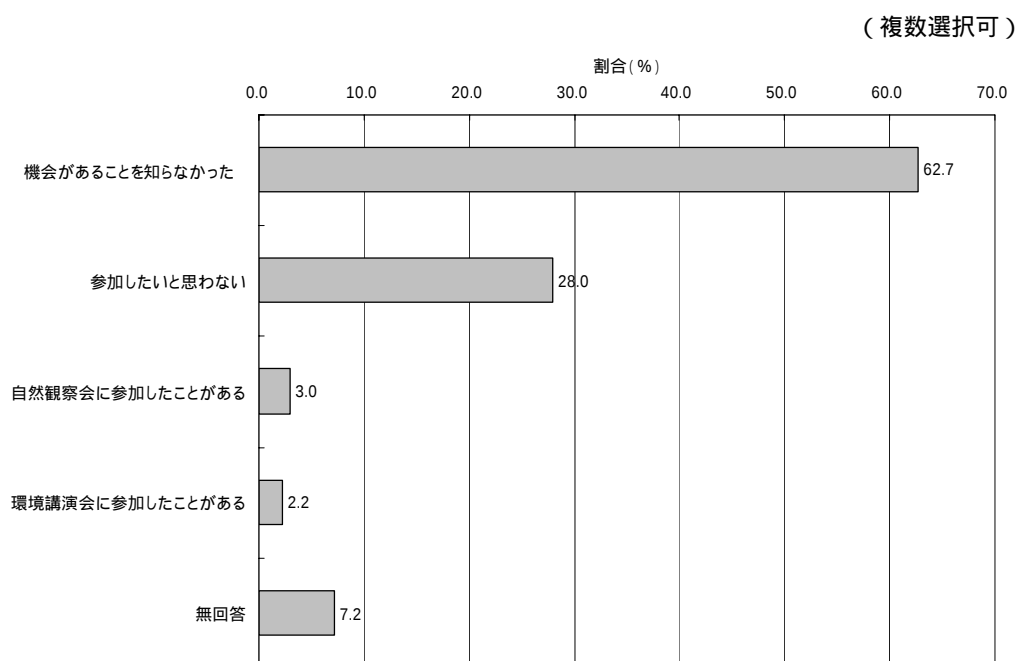
散策マップを利用しない理由（問 23）

「知らなかった」と回答した人が最も多く、半数を超えていた（56.3%）。続いて「どこで入手できるか分からない」が多く（24.5%）、散策マップに関する情報を入手していないという傾向がみられた。



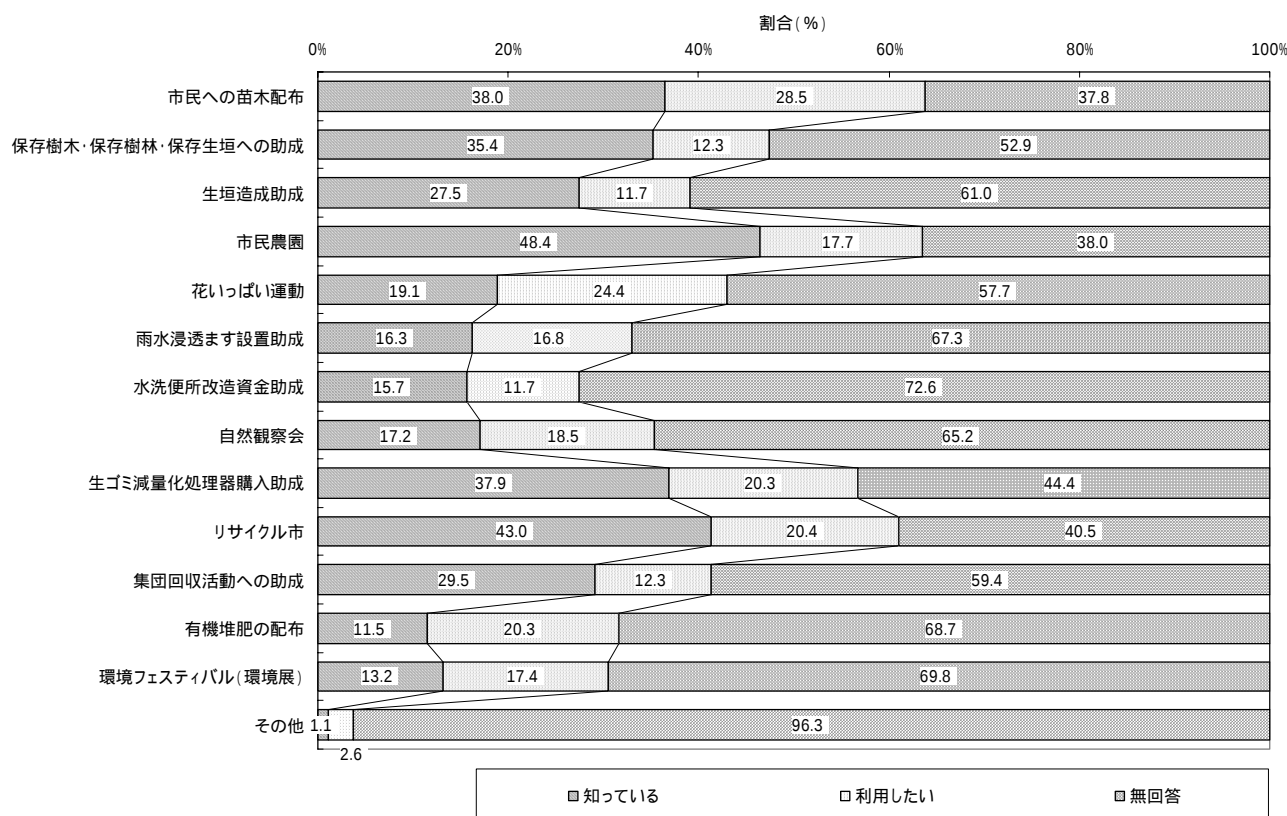
自然観察会、環境講演会の参加経験（問 24）

自然観察会、環境講演会に参加したことがあると回答した人は、それぞれ 3.0%、2.2%に留まった。また、60%を超える人が、「機会があることを知らなかった」と回答していた。



その他の事業（問 25）

「市民への苗木配布」、「保存樹木・保存樹林・保存生垣への助成」、「市民農園」といったみどりに関するもの、また「生ゴミ減量化処理器購入助成」、「リサイクル市」、「集団回収活動への助成」といったゴミの減量・リサイクルに関するものに対して、「知っている」、「利用したい」と回答する人の割合が比較的高かった。



2.2.12 今後取り組んでみたいこと、市への要望（問 26、問 27）

行政や地域と協力して取り組んでみたいこと（問 26）

■ ごみ、リサイクル

- ・まずは区分に従ってごみの分別を徹底することを心がけたい。
- ・ポイ捨てなどのごみ問題。
- ・空き缶やペットボトルなどリサイクル可能な物を 10 円位で回収してくれるといったリサイクル活動があれば取り組みたい。
- ・ゴミの減量推進は必要であるが赤字になっていないのに「ゴミ有料化」になるのは不満である。「分別種類が多い」に「市民に協力してもらおう」＝「資源分別コスト減」＝「有料化しない」となって欲しい。
- ・クリーンな市を目指してください。
- ・リサイクル市をもっとやって欲しい。月 1 回では少ない。個人でやるよりも人が集まるから。

■地球温暖化・エネルギー問題

- ・今最も気になるのが地球温暖化問題です。個人でできることは何でもやっていきたいと考えています。行政から積極的に広報やサポートしていただくと有難いです。
- ・地球温暖化対策にはアンテナを張り巡らせ自分なりに取り組めることを実施していきたい。
- ・無駄なエネルギーの消費削減に努めたいと思います。

■みどり

- ・市民農園を増やしてください。
- ・街路樹や車道と歩道の間に植木を植えるなどの緑化運動があれば協力したい。
- ・緑を増やす事業があれば積極的に参加しようと思います。
- ・地域の緑を守るために住人と協力し合って自然環境の確保に取り組むことが大事だと思います。

■環境学習、市のPR

- ・リサイクルの活用についてのPRが不足している。
- ・分かり易いPRを望む。
- ・各自が心優しくなる示唆、教育、PRなどが一番と思う。
- ・少し無関心な所があったので、もう少し環境保全に関心を持ちたいと思った。
- ・身近でできる取り組みを見てすぐにわかるような表を作って各家庭に配布してもらいたい。
それを見ながら環境保全を意識してやっていきたい。
- ・まだ知らないことばかりだと思ったので、まずは知ることから始めたい。
- ・市がどんな取り組みをしているのか分からない。